

発行所

札幌市北区北15条西7丁目
北大医学部同窓会
TEL&FAX (011) 706-5007
E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp
http://hokudai-med-dousou.com

編集人 田中 伸哉
発行人 浅香 正博

北大医学部同窓会新聞



「Youth」

なが い あずさ
長井 梓(89期)

CONTENTS

- (1)・会長再任のご挨拶……………浅香 正博
卒業生に贈る言葉……………吉岡 充弘
- (2)・平成29年度総会報告及び新入会員歓迎会報告
・平成29年度総会資料
- (3)・新入会員を歓迎して……………浅香 正博
・新入会員ご挨拶……………尾田 拓弥
・第94期生名簿
- (4)・平成29年度同窓会会長賞報告……………大城 修加
・平成30年4月1年次入学者名簿
・2年次進級者名簿・2年次学士編入者名簿
- (5)・教授退任ご挨拶……………西村 正治 有賀 正 丸藤 哲
・教授就任ご挨拶……………木間 明宏
- (6)・教授就任ご挨拶……………小林 弘一 渡利 英道
・春の表彰・叙勲……………加藤 結之
- (7)・平成29年度 医学研究奨励賞・医学部医学科各賞受賞者
大浦 武彦 玉置 瑞子 高美 達也
・フラタ祭2018 9月開催
- (8)・平成29年度フラタ研究奨励賞報告……………渡邊 豊彦
・受賞の喜び……………吉田 肇 魚崎 美絵 鈴木 正江
・小林健太郎
- (9)・平成30年度 フラタ研究奨励賞受賞候補者の募集!!
・新世紀の医学に向けて(32)
・エラムの仲間達へ……………長瀬 秀樹 的場光太郎 南須原康行
・エラムの仲間達へ……………平田 龍司 石田 雄介
- (10)・秩父宮賜杯 第49回全日本大学駅伝対校選手権大会
出場報告……………上横 晋也
- (11)・医学部交換留学体験記……………堀田 海平 糸賀 綾 田村 俊文
- (12)・北海道大学医学部創立100周年記念事業について
・2018年度北海道大学医学部、北海道大学病院、
北海道大学医学部同窓会合同新年会および北海道大学
医学部創立100周年記念事業後援会総会の開催について
・北海道大学医学部創立100周年記念事業基金寄附状況
……………島山 顕次
- (13)・理事会・評議員会報告
・新役員・評議員・予備評議員名簿・告知板
- (14)・告知板・事務局からお知らせ
- (15)・新刊書紹介
- (16)・新刊書紹介
・平成30年度同窓会会員名簿記載事項確認のお願い
・北海道医学会からお知らせ
・同窓会費の納入は1月以降で、同窓会費納入のお願い
・ご逝去者・一面の写真説明・編集後記

会長再任のご挨拶

北海道大学医学部同窓会
会長あさ か まさ ひろ
浅香 正博(48期)

本年3月に開かれた北海道大学医学部同窓会評議員会にて会長に再任されました。これからさらに2年間会長業務に専心したいと考えております。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。早いもので私が同窓会長に就任して6年もの歳月が経過しております。当初は、同窓会の予算が赤字であり、特別会計から900万円ほど取り崩してその場をしのぎました。対策としてコンビニからも年会費の振込を可能にして会員からの納入率を上げるとともに、新入生に医学部入学時より同窓会員になってもらうことを決めてからは収入が増え、現在では黒字決算となっています。医学部同窓会がどうしても行わなければならないことは、戦争で逝かれた同窓生の方々の追悼を行うことでした。19期の今村昌耕先生からの提案がきっかけと成って戦後70周年の節目である2016年7月2日に追悼式を医学部と合同で滞りなく施行することができました。このことで大きな責任を果たすことができ、心よりうれしく思っております。

北海道大学医学部同窓会は現在6,400名もの会員を擁する大きな組織に発展しています。来年に迫った医学部開設

100周年の記念行事として何を行うのかについては医学部と同窓会で十分な打ち合わせを行い、記念事業の目玉として医学部百年記念館を建設することが決定いたしました。記念館の建設は北大医学部同窓会にとって長年の悲願でしたので、医学部の了承を得て、実現に向けて動き出すことになりました。100周年記念行事のための寄付目標を10億円と定め、募金活動がすでに開始されております。2年経った現在、2億6千万円の寄付をいただきました。しかしながら寄付の主体である同窓会員の6.9%からしかご協力をいただいております。90周年の時は24.3%の同窓会員からご協力をいただき最終的に5億円を超える寄付をいただきました。今回は、100周年という特別な節目ですので同窓会を挙げての協力が必要と考えております。各期別の寄付の状況も明らかにしておりますので、各期の評議員の方々を中心に同窓会員の皆様の母校である北海道大学医学部100周年行事へのご協力を衷心よりお願い申し上げます。

卒業生に贈る言葉



医学部長・医学研究院長

よし おか みつ ひろ
吉岡 充弘(60期)

94期の125名の皆さん、卒業おめでとうございます。医学科の課程を修了し、これから医師あるいは研究者として活躍される皆さんの輝かしい門出を心からお祝い申し上げます。

国民から期待されている皆さんの使命は、優れた臨床能力を持つとともに、研究を通じて医学・医療の進歩に貢献できる指導的な医師となることです。皆さんには、このような国民から負託された大きな使命があることを深く心に刻んでください。現在、世界最高レベルにある日本の医療は、時代を超えて脈々とこの使命を果たしてきた多くの先輩達によって、築かれてきたものです。皆さんはこれから、この使命を果たしている多くの先輩に出会い、刺激・指導を受け、そして立派な医師に育っていくことでしょう。今度は皆さんの番です。皆さんがこの使命を果たしていくことになるのです。

現代社会は複雑化し、医師を取り巻く社会状況にも厳しいものがありますが、医師の責務を誠実に果たしていけば、皆さんは人々から尊敬と信頼を得ることができるでしょう。医学・医療がいかに進歩しても変わらない真実であります。皆さんには、このことを忘

れることなく、常に誠実で謙虚な気持ちで患者さんに接していただきたいと思っております。

北海道大学医学部は平成31年に創立100周年を迎えます。すでに9,000名を超える方々が巣立ち、同窓生の活躍の場は日本全国のみならず海外に広がっています。北海道大学医学部は常に、皆さんと共にあります。卒業は大学との別れではなく、新たな協働の始まりです。どうか、皆さんには、これからも、創立100周年を迎える本学の成長・発展に積極的に関わって下さるよう、心からお願い申し上げます。

最後に、札幌農学校の初代教頭であったクラーク博士が唱えた「lofty ambition」(高邁なる大志)という言葉は世紀を超えて北海道大学を揺るぎなく支えてきた理念であります。この言葉を大切に、大きな夢と高い理想を持ち、自らの持てる能力を最大限に発揮することができる「全人」として、皆さんがそれぞれの分野で元気に活躍されることを祈念しています。

平成29年度総会報告及び新入会員歓迎会報告

■平成29年度総会報告

平成29年度総会が、2月11日(日)午後6時30分より札幌パークホテル「高砂」で開催されました。

会議に先立ち、昨年の総会以降にご逝去された77名の会員のご冥福を祈り、黙とうが捧げられました。

総会は評議員会議長の福田諭先生(52期)と副議長の小谷晃司先生(65期)の進行により行われ、最初に浅香正博同窓会長(48期)の挨拶があり、続いて議事録署名人として田中敏先生(71期)及び吉田雅先生(79期)が指名されました。

協議事項では、1.平成28年度会計収支決算として武田宏司会計理事(56期)から、収支決算状況について説明の後、審議了承されました。2.平成28年度会計監査として橋野聡監事(58期)から、会計処理は適切かつ正確に行われている旨説明の後、審議了承されました。

報告事項では、1.平成29年度庶務・事業報告として吉岡充弘副会長(60期)から、会員数の推移、諸会議開催状況、経費支援を行っている医学部学友会事業の実施状況等について、2.平成29年度編集報告として田中伸哉編集理事(66期)から、同窓会新聞及び同窓会員名簿の編集・発行状況について、3.平成29年度会計収支中間報告として武田会計

理事から、収支途中状況について、4.平成29年度フラテ研究奨励賞選考結果として畠山鎮次理事(同賞選考委員)(66期)から、選考経緯及び選考結果についてそれぞれ報告されました。

総会終了後に、平成29年度フラテ研究奨励賞授賞式が畠山理事の司会により執り行われ、渡邊美佳氏(83期)、鈴木正宣氏(81期)、小林健太郎氏(84期)、吉田雅氏(79期)、魚崎英毅氏(80期)に浅香会長から表彰楯及び研究奨励金が授与され、お祝いと激励の言葉が述べられました。

(事務局記)

■第94期新入会員歓迎会

総会に引き続き午後7時30分より同ホテル「エメラルド」で第94期新入会員歓迎会が開催されました。多くの卒業生が参加しやすいようにと、国家試験の最終日の夜に開催することが恒例となっています。今年より医師国家試験が2月10日(土)、11日(日)の2日間となったため、3連休の中日の夜の開催となり、卒業生と同窓会員合わせて64名が出席しました。

会は近祐次郎先生(74期)の司会で進行了。最初に同窓会長である浅香正博先生(48期)から国家試験のねぎらいの言葉と「100周年を迎える歴

史ある北大医学部同窓会を大事にするように。全国的にもしっかりとした同窓会で、きっと皆さんを支援してくれる。」との挨拶がありました。次に医学部長である吉岡充弘先生(60期)より94期学生全員の卒業決定の報告と「同窓会が医学部の振興、発展に寄与してきた。これからは後輩のために支援することを自覚していただきたい。これから色々なことがあるが、北大医学部を卒業した恩恵が必ずある。」との挨拶がありました。

続いて多米豊先生(34期)の国家試験のねぎらいとともに、乾杯の発声、祝宴となりました。会は和やかな雰囲気のもと、和洋中折衷の料理を楽しみつつ進行了。ピアノ演奏の中、各テーブルでは、新入会員の学生と先輩先生方の会話をしむ姿が見られました。

会が進む中、新入会員代表の原田拓弥君の歓迎会開催へのお礼と、「学生時代に色々なことに挑戦してきた同期がたくさんいた。これからは頑張っていきたい。」との言葉がありました。

続いて、ご来賓の長瀬清北海道医師会会長(40期)から医師会の紹介、資金清博北大病院長(55期)から同期や同窓の絆の大切さ、阿部弘北海道脳神経外科記念病院名誉顧問(37期)から医

学の勉強やトレーニングは一生続くこと意識すること、若いときの勉強が大事である、などのアドバイスがありました。さらに佐久間一郎副会長(55期)から、医師になってからも色々なことに挑戦してほしい、とのスピーチがありました。

しばらくの歓談のあと余興があり、鈴木重統先生(39期)から「Ich habe mein Herz in Heidelberg verloren」のドイツ語での独唱、中村仁志夫先生(44期)から自作の「腫瘍病理の歌」が披露されました。さらに佐久間一郎先生(55期)の2回目のスピーチのあと、フラテ研究奨励賞受賞者の吉田雅先生(79期)、魚崎英毅先生(80期)、渡邊美佳先生(83期)、小林健太郎先生(84期)と受賞者の鈴木正宣先生(81期)の代理として鈴木崇祥先生(84期)から各々の受賞のあいさつの後、5名による「WOW WAR TONIGHT」の合唱がありました。

そろそろ会が終わりに近づき、南勝先生(40期)からの国家試験合格の祈念と閉会の乾杯の発声のあと、出席者皆が輪になって、齊木健人君(94期)の前口上のもと「都ぞ弥生」を斉唱し、第94期新入会員歓迎会は終了しました。



多米豊先生 開会ご発声



資金清博病院長 スピーチ



阿部弘名誉教授 スピーチ



フラテ賞の受賞者による余興



南勝先生 閉会ご発声

平成29年度総会資料

平成28年度 北海道大学医学部同窓会 会計収支決算書

<収入(円)> 平成29年3月31日

項目	予算額	決算額	実行率(%)
会費収入	20,423,000	20,291,183	99
口座引落		16,025,108	
銀行振込		185,075	
郵便振替		3,247,000	
事業関連収入	240,000	280,000	117
広告収入	240,000	280,000	117
販売収入	0	0	
雑収入	721,000	807,462	112
利息収入	1,000	77	8
保険事務費	720,000	797,385	111
その他	0	10,000	
当年度収入額	21,384,000	21,378,645	100
前年度繰越額	8,837,000	8,372,696	95
収入合計額	30,221,000	29,751,341	98

<支出(円)>

項目	予算額	決算額	実行率(%)
庶務費	12,105,000	11,239,595	93
総会・新入会員歓迎会	870,000	838,100	96
新聞・名簿印刷費	5,450,000	5,492,729	101
刊行物送付費	2,100,000	2,096,163	100
記念品費	260,000	296,980	114
学友会助成費等	1,000,000	800,000	80
フラテ奨励賞	300,000	300,000	100
研究助成費(フラテ賞)	1,080,000	436,201	40
学生表彰費(会長賞)	130,000	46,872	36
ホームページ更新費	80,000	86,400	108
会員登録システム改修費	100,000	0	0
寄附者感謝状制作成費	135,000	0	0
戦没回生追悼式	600,000	826,150	138
総務費	9,090,000	8,912,116	98
職員給与費	4,900,000	5,112,855	104
諸保険事業主負担	950,000	843,156	89
諸謝金	30,000	30,000	100
会議費	240,000	109,100	45
渉外費	50,000	34,624	69
旅費交通費	150,000	46,320	31
印刷費	2,100,000	2,102,060	100
・会費請求書作成費			
通信費	330,000	285,729	87
消耗品費	220,000	236,576	108
備品購入費	100,000	99,600	100
販入手数料	20,000	12,096	60
その他	0	1,000,000	
特別会計へ繰入	0	1,000,000	
予算費	100,000	0	0
当年度支出額	21,295,000	21,151,711	99
収支差額	8,926,000	8,599,630	96

次年度繰越額(①-②=③)

平成28年度 北海道大学医学部同窓会 特別会計報告書

平成29年3月31日

銀行名	預金の種類	平成27年度末(28.3.31) 預金額(円)	期間 受入額(円)	期間 利息(円)	平成28年度末(29.3.31) 預金額(円)	備考
三菱UFJ信託銀行	定期預金	9,535,890	-	2,025	9,537,915	
三井住友信託銀行	定期預金	10,127,603	-	2,124	10,129,727	
北洋銀行	定期預金	6,044,986	1,000,000	1,542	7,046,528	前払1月-一般会計へ繰入
北洋銀行	普通預金	2,688,665	-	26	2,688,691	
合 計		28,397,144	1,000,000	5,717	29,402,861	

平成28年度 会計監査報告書

北海道大学医学部同窓会
会長 浅香 正博 殿

北海道大学医学部同窓会監事として、会則第10条第4項の規定に基づき、平成28年度会計収支決算状況の監査を実施した。

監査の結果、出納簿及び関係書類の整備、並びに特別会計の預金等の会計処理は、適切かつ正確に行われているものと認めた。

従って、平成28年度の北海道大学医学部同窓会の会計処理は、決算書のとおり正当であると認めるものである。

平成29年4月12日

監事 橋野 聡
監事 藤井 ひとみ

新入会員を歓迎して

北海道大学医学部同窓会会長 浅香 正博(48期)



と自覚して下さい。

現在の医療は、医師を中心にして看護師、薬剤師などがチームを作り、協力しながら患者を治していくチーム医療が中心となってきました。したがってこれからは医師としてそのリーダーシップを発揮し、医療チームを率いて患者をできる限り早期に社会復帰させることを心がける必要があります。このような多職種連携をどのように行っていくのかを常に考えるようにして下さい。君たちがこれから入っていく医療界は日進月歩の世界であります。したがって卒業してからもしっかりと学び続けることがきわめて重要といえます。人から感謝されることが実感できる医師という職業はやりがいのある仕事です。将来年を経て人生を振り

返ったときに充実感を感じることができるようそれぞれがしっかりと人生設計を行って前に進んで行っていたきたいと思います。

北海道大学医学部は来年2019年に創立100周年を迎えることになります。100年という大きな節目を迎えることでさらに新しい飛躍につながることを期待しております。北海道大学医学部同窓会は、入会された94期の皆さんの発展と飛躍を心から期待し、できる限りの支援をいたしたいと考えております。なお同窓会の活動はすべて同窓会員から集めた同窓会費で賄われていることを忘れないで下さい。コンビニからも支払いができるようになりましたので、毎年の入金をくれぐれも忘れないようお願いいたします。

医学部94期の皆さん、ご卒業誠にありがとうございます。北海道大学医学部同窓会は皆さんのご入会を心より歓迎いたします。医学部同窓会は北海道大学医学部の創設と同時に発足し、約6,400名もの会員から成り立っています。これから君たちは医学部同窓会が年に3回発行している同窓会新聞、隔年ごとに発行している同窓会名簿と同窓会誌を受け取ることになります。君たちも同窓会の一員としてこれらの編集に自然な形で携わることになりますので

ろしくお願いいたします。

医師という職業は、患者と直接向かい合い個人情報共有しながらその病気を治していくことを目的としています。したがって、医師になったと同時に他の職業にはない大きな責任を負うことになります。これがノブレス・オブリージュと呼ばれる高貴なるものゆえの義務なのです。これからは君たちの評価は自分で行うことが出来ず、第三者である患者、先輩、同僚らによって行われることになることをしっかりと

新入会員ご挨拶

総代 原田 拓弥(94期)



この度、第94期生125名が北海道大学医学部同窓会の一員になりました。125名を代表して、僭越ながらご挨拶申し上げます。北の大地で長い歴史と伝統を紡がれてきた同窓会に入会できたことを大変嬉しく思っております。

先日はご多用の中、新入会員歓迎会を開催してくださり、誠にありがとうございました。多くの先輩方から、同窓会・医師会の大きな役割や研修時代のお話、ドイツ語の歌や病理の歌、オリンピックに関連してスポーツ医学の

お話など、多くの貴重なお話をお聴きすることができました。研究は患者との出会いがきっかけとなる、研修時代は寝る間を惜しんで診療と研究に励んだとお聴きし、先輩方の背中を追って研鑽していきたいと決意しました。

さて、六年前、私達は94期として入学しました。入学式後のオリエンテーションで、当時学部長でおられた玉木良長先生が私達に贈ってくださった言葉を昨日のことのように覚えています。「高校までの君たちは個々人で頑張って

きたことと思う。しかし、これからはチームで、同期とともに高みを目指して勉学に励んでいください」という趣旨の言葉を贈ってくださいました。同期とともに高みに、という言葉が心にずっと残り、六年間勉学に励んで参りました。

在学中は講義や実習で諸先輩方に熱いご指導を賜り、心より感謝しております。基礎医学、臨床医学ともにとても臨場感のあるご講義をお聴きし、医学と医療への思いを深くしました。課外活動でも実験を経験する機会を頂いたり、学生部門のある学会への参加を支援してくださったり、あるいはピアガーデンでビール片手に語ってくださったりと、先生方には大変お世話になりました。また、同窓会の皆様にも

医学展へのご支援をいただいたり、懇親会を主催して下さったりと、お世話になって参りました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

六年間を通して、生涯にわたり命と向き合っていく決意を新たにしました。共に学ぶ仲間に出会えたこと、導いてくださる先生方にお会いできたことを心から感謝しております。これから私達は各地で同窓会員の諸先輩方にお世話になることが多々あると存じますので、ご指導ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

最後になりますが、北大医学部同窓会のいっそうの発展を祈念し、ご挨拶いたします。

94期生名簿(125名)

平成30年2月9日現在

氏名	出身高校	勤務先等(予定)	氏名	出身高校	勤務先等(予定)	氏名	出身高校	勤務先等(予定)	氏名	出身高校	勤務先等(予定)
秋山 采慧	札幌南		加藤 駿			滝沢 亮介			福永 清		
姉崎 大樹			上遠野なほ	札幌南	砂川市立病院	瀧田 謙			藤重 美琴	札幌南	北海道医療センター
安部樹太朗			鎌田 和郎	札幌南	苫小牧市立病院	武田 知佳	札幌大谷	斗南病院	藤田 幸大		
有賀 圭太			亀田 健介			竹原 洋士	大阪星光学院	堺市立総合医療センター	星野 豊		銅路赤十字病院
有田 皓介			川村 拓也			田中 翔	札幌南	苫小牧市立病院	前田 健登		
有銘 勇登	城北	北大病院	韓 昇熙			田中 智之			前西真梨子		
安藤秀一郎			北野 翔一			谷藤 穂波			増田 海平		
飯島智佳子			吉瀬 馨	札幌西	函館中央病院	谷向 哲矢			松村 直也		
池守 悠太			熊谷健太郎	札幌西	帯広厚生病院	為永 節雄			丸尾 匡史		
石川 真一			黒滝 拓磨			千葉麻夕子	札幌北		三澤 隆一		
石川 昂弥	札幌南		小島 圭祐	札幌南	北大病院	津坂 翔一			宮本 哲慎	広島学院	
板倉 恒輝			小成 佳穂	札幌南		寺田悠里子	女子学院	手稲漢仁会病院	向山 綾華		
一戸亜里香			小林 真綾			土橋 晋也	西武学園文理	NTT東日本札幌病院	森 祐斗	札幌南	帯広厚生病院
糸賀 穂	北嶺	帯広厚生病院	小林 諒	早稲田		富田 賢剛	滝川	俱知安厚生病院	矢ヶ部俊彰	北広島	斗南病院
稲垣 優希			小林 悠人			中條 誠也			安田 大成		
井上 達也	広島学院		小森 卓			中西 俊平	聖光学院	関東中央病院	山形 優友		
今村 堂大	札幌光星	JCHO東京新宿メディカルセンター	齊木 健人	開成	天使病院	中村 慧	札幌南		山田 真司	渋谷教育学園幕張	旭川赤十字病院
宇賀神北斗			左合はるな	福井県立藤島	名古屋医療センター	中山 隼	岡山	聖マリア病院	山村みつ江		
氏家 卓弥			笹森 暁	筑波大学附属	北大大学院	中山 大輝	修猷館	苫小牧市立病院	山本 葉一		
梅村 浩輔			佐藤 元哉			鍋島 龍一			万木慎太郎		
大泉 里奈	札幌南	市立函館病院	椎谷 研彦			成田 昌央			横井 康一	札幌南	帯広厚生病院
大岩 慧			鹿間 健志	松本深志	東大附属病院	鳴海 茜	弘前学院聖愛	岩手県立中央病院	吉川 修平	札幌開成	旭川赤十字病院
大河原桃子	成蹊	阪大病院	島田祐希子			二階堂貴文	愛光	砂川市立病院	吉田 実世		
大木拓究人			島野 桂周			西澤 仁貴			頼永 聡子		
太田 辰位	栃木県立今市		清水 哲夫			沼口 京介			渡辺 祈一	北嶺	北大病院
奥山 友浩	札幌西	砂川市立病院	庄子 尚子			晶山 西季			渡邊 康太		
尾崎 孝爾	世田谷学園	北大病院	菅原悠太郎			花井 阿宜			渡邊 菜悠		
尾崎 瑞帆			関根 薫平			原 将希			渡邊 洋章	栄東	国立国際医療研究センター
織田 晃央			高岡 憲敬	北嶺	王子総合病院	原田 拓弥			渡部 克将		
勝俣 元都	聖光学院	帯広協会病院	高橋 明広			原田 知弥					
門 遼星			高橋 叶衣			昼間 楓	大阪桐蔭	菊名記念病院			
加藤 結輔			高島 海志	新潟	福岡市民病院	福島 瑛					

平成29年度同窓会会長賞報告

本賞は、次の一に該当する医学部医学科を卒業する学生を顕彰することを目的に、平成27年度に創設されました。

(1) 学業成績に対する表彰

学業成績が特に優秀で、かつ、人格に優れた者 3名以内

(2) 研究活動に対する表彰

学会、学会誌等で優れた評価を受けた者

(3) 課外活動に対する表彰

全国規模の競技会、コンクール等で優勝した団体の主将、または個人

(4) 社会貢献に対する表彰

ボランティア活動、人命救助、災害救援等の社会活動において、活動実績が認められ、他の学生の模範となった者

(5) その他の活動等に対する表彰

その他前4号に準ずるもので、同窓会

会長賞にふさわしいと認められる者
受賞者は、毎年2月に医学部長から推薦された候補者について選考し、第3回目となる平成29年度は次の8名を受賞者として決定しました。

授賞式は3月22日（木）に開催された医学部医学科学学位記伝達式で、浅香正博同窓会長（48期）から表彰状が贈呈されました。

(1) 学業成績に対する表彰

原田 拓弥 森 祐斗
田中 翔

【授賞理由】在学中の学業成績が特に優秀で、かつ、人格に優れている。

(2) 研究活動に対する表彰

上遠野 なほ

【授賞理由】在学中に腫瘍病理学教室において熱心に研究に取り組み、その

成果を筆頭演者として、日本病理学会総会で発表し高い評価を得た。

笹森 瞳

【授賞理由】在学中に神経薬理学教室において熱心に研究に取り組み、その成果を筆頭演者として、日本薬理学会北部会で発表し高い評価を得た。

鍋島 龍一

【授賞理由】在学中に腫瘍病理学教室において熱心に研究に取り組み、その成果を筆頭演者として、日本分子生物学会年会で発表し高い評価を得た。

秋山 采慧

【授賞理由】在学中に腫瘍病理学教室において熱心に研究に取り組み、その成果を筆頭演者として、日本病理学会総会で発表し高い評価を得た。

(4) 社会貢献に対する表彰

宮本 哲儀

【授賞理由】在学中に発生した救急事案において迅速で的確な応急手当を行い、人命を救助しました。これは社会に貢献し高く評価された。

（敬称略）



新入生ご挨拶

100期代表 大城 怜加



医師には、患者の病氣や怪我を治し、その心身の痛みや苦しみを和らげ、人々の健康や生命を助けるという崇高な使命があると考えています。実際、幼い頃喘息を患っていた私を、親身になっ

て適切な診療をしてくださった医師を大変ありがたく思いました。今、その医師となるためのスタートラインに立つことができ、嬉しく誇らしく思うと同時に、身の引き締まる思いを改めて

強く抱えています。私たち新入生は、各人の理想とする医師像に近づけるよう、切磋琢磨しながら真摯にかつ謙虚に勉学に励んで参ります。深い知識と高い技術、そして広い教養と豊かな人間性を併せ持ち、患者さんを第一に考えて最善の医療を施す医師となり、社会に貢献して人々に奉仕できることを目指し、日々精進を重ねて参ります。諸先生方・諸先輩方におかれましては、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒宜

しくお願い申し上げます。

多くの先輩方が築き上げてきた北海道大学の輝かしい歴史と伝統に新たな一ページを加えられるよう、目まぐるしく変化する社会にも目ざましく進歩する科学技術にも柔軟に対応しながら、仲間とともに一生懸命努力し続けることをここに誓いまして、ご挨拶とさせていただきます。

平成30年4月 1年次入学者名簿(102名) 100期生

氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校
大城 怜加	昭和薬科大学附属	堂向 修央	札幌南	信岡 優希	札幌南	佐藤 匠馬	滝	白石耕太郎	海城	今井 公俊	札幌西
龍川 悠高	旭川東	草間 友規	山梨学院	後藤 雅貴	県立青森	増井 健人	日比谷	守口 天斗	久留米大学附属	田中 貴大	早稲田
辻 恭平	聖光学院	辻 まどか	県立松本深志	蜂谷 陽介	大阪桐蔭	佐藤 史弥	北嶺	石川 智希	安積	若原 央	岐阜県立大垣北
大田 知慧	札幌南	中川 晃祐	札幌南	坂井 駿太	高槻	松澤 潤	筑波大学附属	眞保 悠	希望ヶ丘	飯田美 紗子	桜蔭
金田 佑大		黒河 悠	札幌光星	酒田 篤幹	兵庫	岸柳 佑亮	札幌北	山田 佳佑	芝	今谷 真	札幌南
出村 拓巳	大森	友寄 里香	昭和薬科大学附属	坂本翔太郎	札幌西	佐藤 亮	札幌南	伊藤 史苑	北嶺	田中 藤	開成
太田 帆香	清風南海	成田 大高	北嶺	樋口 太清	青森	松下 康	札幌南	高野 伊織	北嶺	板谷 悠帆	旭川東
鎌田 啓介	八戸	桑原 輝	北嶺	佐古 結基	札幌北	東 拓樹	北嶺	山本 哲太	鋼路湖陵	大久保諒一	
東海林 巧	札幌南	西尾 拓馬	札幌南	平井 敦規	県立高崎	芝野 良紀	東大寺学園	伊藤 樹希	修猷館	谷口 広樹	明秀
加藤 愛理	札幌南	西川 佑里	札幌南	佐々木祐一郎	札幌南	松田 拓也	札幌国際情報	高橋謙太郎	旭川東	市川 芽生	札幌南
菊池光太郎	札幌南	小澤 史弥	北嶺	廣石 和輝	開成	荒木 琢登	筑波大学附属	山本 尚樹	札幌南	岡野 和哉	逗子開成
徳光 駿	札幌北	西村 慧	北嶺	笹屋 京介	海陽中等教育	清水 駿	筑波大学附属	伊藤 洋	仙台第二	張 勳成	東大寺学園
北村 祐貴	札幌南	平松佳那美	神戸海星女子学院	福島 秀文	桐蔭	丸井哲之介	白陵	竹内 尚樹	開成	江端 美穂	札幌日本大学
佐々木美羽	札幌南	古堂 草太	札幌北	佐藤 海斗	県立浜松北	池上 隼	西大和学園	吉澤 佑真	札幌南	小栗 涼	立命館慶祥
富田 来	札幌北	野崎 祐太	高田	藤本 巧	札幌南	下瀬 翼	修猷館	猪部 優樹	金沢大学附属	月原 知輝	帝塚山
吉川 諒	日本大学三島	松岡 実沙	雙葉	佐藤謙太郎	愛光	森 雅敏	明治学園	立野 涼仁	札幌北	島田 美和	新潟高校
関根かれん	札幌大谷	近藤 隆	開成	前頭 康祐	嵯峨野	池田 壮雄	開成	米澤 大晟	雨宮ラ・サール	大澤は んな	雙葉高校

平成30年4月 2年次進級者名簿(5名) ※総合教育部から移行

氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校
太田 恭輔	札幌北	岸浪 健	旭川東	小澤 隼	東京学芸大学附属国際	真島 慧太	札幌北	尾谷 雷花	札幌南

平成30年4月 2年次学士編入学者名簿(5名)

氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校
牛田晃太郎		廣瀬 克彦		上田 直司		丸井 和輝	慶應義塾大学	中村 恒星	富山大学

教授退任ご挨拶



内科学分野
呼吸器内科学教室
にしむら まさひろ
西村 正治
(53期)

「北海道大学を退職するにあたり」

この3月末日をもって本学を定年退職致しました。私は本学医学部を昭和52年（1977年）3月に卒業しました。当時は大学病院で6か月の卒後研修を経て、すぐに砂川市立病院に1年間、国立函館病院に6か月勤務しました。ほかには学位取得後にボストンにあるMassachusetts General Hospitalに2年10か月留学した以外はすべて大学病院に勤

めておりました。医師のキャリアとしては異例と言えるでしょう。そして、教授職を拝命してからは17年3か月に及びます。なんとか退職を無事に迎えることができましたのは、言うまでもなく、多くの素晴らしい方々との出会いがあり、そしてご支援を受けることができたからです。また、人生の節々でチャレンジする機会をいただいたことが医学部卒業当時は想像もしなかった人生を送ることになった理由です。とりわけ、第一内科に入局した際の恩師である村尾誠教授には研究をすることの価値を教えていただき、自分では決められずに研究テーマも授けられました。川上義和先生には研究グループのリー

ダーとしてお世話になったばかりではなく、先生が村尾教授の跡を継いで教授になられたときには、すぐに留学先まで決めていただいたうえでその機会を与えてくださいました。このお二人との出会いがなければ私の人生はまったく違うものとなっていたでしょう。

教授職を拝命してからの人生は私にとって、文字通り“神様から与えられた使命”という意識で、臨床、研究、教育のすべてに全力投球してまいりました。臨床講座の教授職に就いて気がついたことは、学会内部や同僚教授はもちろんのこと、医局員からも直接の批判や辛口のアドバイスを受けにくくなるということです。一方、医局員を始めとし

て周りは自分の背中を常に注目しています。いかに自分を厳しく律することが大切であるかを常に意識していなければなりません。もうひとつは、臨床、研究、教育のほかに組織の方向性を指揮すること、そして何か事が起こればそれを処理する高いマネージメント能力が求められることです。

悲しい出来事、つらい事件もあった一方で、多くの仲間と成し遂げた臨床、研究、教育を通じた社会貢献は私の大学人としての人生をこれ以上ないほど豊かにそして幸せにしてくれました。この紙面を借りて関わったすべての方々に心より厚く御礼を申し上げたいと思います。



生殖・発達
医学分野
小児科学教室
ありが まさひろ
有賀 正
(54期)

平成30年3月31日をもって北海道大学大学院医学研究院北海道大学病院を退職しました。丸14年間、皆様には教授/科長としてお世話になりました。本当にありがとうございました。

私は1972年に北大に入学しました。合格発表の掲示を見るため、雪解けの北大構内中央道路にできた水たまりを避けながら歩いたのを今でも鮮明に覚えております。そして、掲示板に自分の名前を見つけたその時から私の北大

時代が始まりました。それから46年、今、こうして北大を去ってみると、時の流れの速さに驚き、北大で過ごしたたくさんさんの思い出が、寂しさとともに心を満たしてきます。素晴らしいキャンパス、素晴らしい恩師、素晴らしい仲間を支えられ、無事に退職できたことにただただ感謝しております。

大学の使命は、臨床、研究、教育とされています。私の教授就任に合わせるように初期臨床研修医制度が始まり、医師の地域偏在を助長しました。その結果、教室のマンパワー不足にとどめを刺され、断腸の思いでいくつかの病院の集約を行いました。それでも優秀な仲間に恵まれ、道内の小児科医療の維持は死守し、大学病院の小児科

としての使命であるあらゆる疾患に苦しむ子どもたちの最後の砦としての役割は果たせたと思っております。

研究においては各グループが専門性の高い独自の研究を深め、それぞれの分野で北大小児科ありという発信をしてくれました。特に退職の間際に私の念願であった新しい免疫不全症を北大小児科から報告でき、ホッとするとともに嬉しく思っております。

私は教授になって教育の面白さに覚醒しました。去年、今年と国試の成績が思わしくないため、心配される方々も多いと思います。短期的にはその通りですが、北大学生の将来は心配ないと私は信じております。ただ、のんびりして少しは危機感を持って欲し

いことも事実ですので、私のような楽観論を読んで学生が安心しないよう注意も必要でしょう。

退職の直前には残務整理と様々な宴で慌ただしくしておりましたが、新年度から、社会医療法人母恋の理事長として慣れない業務に四苦八苦の毎日をご過しております。大学教授の責任から解放された間も無く、新たな責任の重さで身の引き締まる思いをしております。皆様には違う面から、これからもお世話になり、ご指導いただくことになると思います。

最後に、北海道大学医学部医学部同窓会がますます発展することを、同窓会の一員として祈念し、教授退任のご挨拶といたします。



侵襲制御医学分野
救急医学教室
がん どう
丸藤 哲
(54期)

「救急医療と救急医学、零からの門出」

1997年に市立札幌病院救急医療部から医学部附属病院集中治療部に異動しました。1999年に医学部侵襲制御医学講座救急医学分野を主宰することになり、附属病院では救急部と集中治療部長を拝命しました。その後、所属は医学研究科、医学研究院となり救急医学分野は救急医学教室と改名、救急部と集中治療部は統合されて先進急性期

医療センターとなり現在に到ります。

救急医学は新しい学問体系です。その独立性を多くの皆様に理解していただく事を目標に救急医学教育・研究を開始しましたが、大層苦難の道であった記憶が蘇ります。しかし、二千名近い医学部生が救急医学の系統・臨床講義を受けて卒業して行きました。救急医学を生涯の研究対象として救急医学分野の門を叩いてくれた多くの新人を迎える事も出来た事です。彼らが、新しい独立した学問体系としての救急医学を次の世代に引き継いでくれることを信じています。

北海道大学病院は2000年6月5日に三次救急医療に参画しました。開設準備

に約10ヶ月を要しましたが、診療科、センター・部門、そして事務の方々のご協力を頂き三次救急医療を開始する事ができました。多大なるご支援を賜った皆様に改めて御礼申し上げます。その後二十年近くが経過しましたが、先進急性期医療センターは院内のみならず、札幌市・北海道の救急・重症症例の最後の砦に成長したと確信します。

救急医学は災害医療・医学をその守備範囲としています。病院災害対策マニュアル完成、災害拠点病院指定、Disaster Medical Assistance Team (DMAT)誕生を経て北海道大学病院の災害対策は大きく進展しました。さらに、北海道大学病院は緊急被ばく医療体制

(現、原子力災害医療体制)にも参画しています。災害医療体制の構築と進展には事務部門の協力が不可欠ですが、十数年の長きにわたり事務部門の皆様にも多大なる支援をいただきましたことを改めて御礼申し上げます。

「零」から出発した救急医療と救急医学が盤石のものとなるには、もう少し時間がかかるかも知れません。初代教授として皆様のご協力・ご支援を得て、その基礎を構築しえたことを誇りに思っています。今後とも、救急医療と救急医学をよろしくお願い申し上げます。

教授就任ご挨拶

感覚器病学分野
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室



ほん ま
本間 明宏
(65期)

このたび、2017年11月16日に福田論先生の後任として耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室教授を拝命いたしました。伝統ある教室を引き継ぎ、身が引き締まる思いであります。

私は富良野に生まれ、北大医学部を平成元年3月に卒業後、ただちに犬山征

夫先生が教授に就任した直後の耳鼻咽喉科学教室に入局いたしました。その後、函館中央病院、市立釧路総合病院、癌研究会附属病院頭頸科などで研修し、頭頸部がんの分子生物学的検討で平成11年に学位を取得したあとは、頭頸部がんの診療に没頭してきました。

北大では犬山・福田先生のリーダーシップで、約30年前から頭頸部進行癌に対して拡大切除・再建を他科と合同

で行い、放射線治療、薬物療法も取り入れた集学的治療を実践してきました。そして、私が積極的に進めてきた超選択的動注療法については世界的にも主導的な立場にあります。このような複数科で行うチーム医療がうまく機能しているのも関係各科の先生方のご協力のおかげで、この場を借りて深く感謝申し上げます。

耳鼻咽喉科学は古くから専門分野と

して独立し長い歴史を有します。北大においても臨床系の教室としては、内科、外科に続いて眼科とともに3番目に大正11(1922)年5月に開設され、病院においても内科、外科、産婦人科に引き続き同年9月に診療が開始されております。その後、耳鼻咽喉科は、耳科、鼻科、

口腔咽喉頭、喉頭、めまい平衡、顔面神経、頭頸部腫瘍、甲状腺外科など多くの領域を診断から手術を含めた治療まで行う耳鼻咽喉科・頭頸部外科として発展しております。

幸い教室には各分野に有能な人材が多くおり、各専門領域の基礎研究、臨

床研究をさらに発展させ、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の進歩に少しでも寄与できるよう努力していく所存です。

当教室は4年後に創設100周年を迎えます。歴代の教授をはじめとした諸先輩方が作ってきた当教室の自主性を尊重し伸び伸びと仕事ができる自由な雰

囲気を維持しつつ、北大の教育・研究の基本理念である「フロンティア精神」、「国際性の涵養」、「全人教育」、「実学の重視」を基にさらに教室を発展させ、次の100年の礎を築いていきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

微生物学免疫学分野 免疫学教室



こばやし ひろし
小林 弘一
(会員2)

この度、医学研究院免疫学(元細菌学)の6代目の教授として着任することになりました。アメリカで過ごした19年の間、2つの研究室を主催しておりますので、今回3つ目の研究室となります。私は1991年に千葉大医学部を卒業し、内科研修(第二内科、吉田尚教授、斎藤康教授)終了後、免疫学研究で千葉大大学院

(徳久教授、現千葉大学長)を修了しました。大学院修了後、イェール大学のRichard Flavell先生の研究室にて自然免疫の研究を行いました。幸い共同研究者にも恵まれ、2004年に最初の研究室をハーバード大学のダナファーマー癌研究所に持ちました。ハーバードは教官へのプレッシャーが非常に強い反面、素晴らしい同僚がたくさんおり、大学院プログラムはこれ以上はないほどに充実しています。ハーバードでは8年過ごし、自然免疫や、炎症性疾患の原因解明、特にクローン病の発症モデルの作成と遺伝学的機序などを明らかにしました。2012年に

は、テキサスA&M大学に移りました。キャンパス内に大学の空港を有する等スケールが大きい大学で、大学財団資金は110億ドル、研究予算年間10億ドルと研究面でもスケールの大きい大学です。教室の研究ですが、自然免疫に加え、MHC遺伝子の発現制御をメインテーマとしています。クラスIIの発現制御因子は1993年に同定されましたが、クラスIの発現制御因子(CITA=NLRC5)は私達が同定するまで長く未知でした。クラスIIはCD8 T細胞の機能に必須のため、私たちの研究も広い分野に広がっております。

20年ぶりに日本のアカデミアに帰ってきて感じるのは、大学の国際化の必要性和大学自主財源強化の必要性です。前者

は日本の主要大学が世界ランキングで深く沈んでいる主要原因の一つです。後者は国立大学運営費交付金の度重なる削減より明らかと思われます。どちらも長年論じられてきたはずですが、改革への道は遠そうです。唯一の救いは北大生のポテンシャルの高さです。今年から講義を担当するにあたり、講義の7割を英語にし、海外のトップサイエンティストにオンラインで授業をしてもらい、POPSというアメリカのactive learning systemを導入致しました。改革に対して学生の反応は様々でしたが、一群の積極的な学生の能力の高さには驚かされました。同窓会の先生方におかれましては今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒宜しくお願い致します。

生殖・発達医学分野 産婦人科学教室



わた べ ひで ちひろ
渡利 英道
(65期)

このたび、平成30年3月16日付で北海道大学大学院医学研究院産婦人科学教室の教授を拝命致しました。ここに謹んで新任のご挨拶を申し上げます。当教室は大正12年5月に開講されて以来、95年の長い歴史を有する教室です。その間、日本のスキー界の発展に貢献されたことでも高名な初代 大野精七教授、第二代 小川玄一教授、第三代

松田正二教授、第四代 一戸喜兵衛教授、第五代 藤本征一郎教授、第六代 櫻木範明教授(生殖内分泌・腫瘍学分野)/水上尚典教授(産科・生殖医学分野)と、日本国内のみならず国際的にも幅広く活躍された歴代教授によって教室の伝統が脈々と築かれ、現在の教室の隆盛に繋がって参りました。このような伝統ある教室の第七代教授を拝命しましたことは、大変光栄であると同時に、その責任の重さに身の引き締まる思いであります。

私は、平成元年に北海道大学医学部を卒業後、ただちに当時の藤本教室に入局させて頂きました。関連病院での

研修、大学院での研究生生活を経て、平成7年3月に医学博士号の授与を受けました。その後、関連病院での医長経験を経て、平成8年10月より米国ペンシルベニア大学産婦人科に留学する機会を頂き、主に周産期学、生殖内分泌学に関する基礎研究に従事致しました。帰国後は、北海道大学病院婦人科で櫻木範明教授のご指導の下、婦人科悪性腫瘍患者の治療成績向上を目指し、臨床、研究に関する様々な取り組みを経験させて頂きました。これまでの経験を生かして、臨床研究中核病院、がんゲノム中核拠点病院として北海道大学病院が今後機能するために微力ながら貢献していきたいと思っております。さらに今後は、専門である婦人科腫瘍の領域のみならず、周産期学、生殖医学、

女性医学、遺伝医学など産婦人科学の全ての専門領域の診療、研究の発展のために積極的に取り組んでいく所存です。

今後の教室運営で最も重要な取り組みは、人材育成に尽きると考えています。そのためには、医学部教育から専門医教育に至るまでの一貫した教育体制の整備が肝要であり、大学と関連病院とのこれまで以上の密接な連携が今後さらに求められている状況と認識しています。

産婦人科学・医療の発展のため、教室に対する医学研究院の皆様からの今後益々のご支援、ご指導を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

春の褒章、叙勲

瑞宝中綬章受章



北海道大学
名誉教授
かとう ひろのり
加藤 紘之
(43期)

叙勲考

平成30年度 春の叙勲に際し瑞宝中綬章を受章する栄誉を賜った。

叙勲は形式上、個人に与えられたことになるが、同窓会の皆様はじめ多くの方々のお力添えの賜物と心からの感謝を申し上げます。

実は私が叙勲の対象になり最終選考中である旨の連絡を受けた時、これは外れるに違いないと即座に思った。記憶されておられる会員諸氏も多いと思われるが、約25年前の名義貸し事件はマスコミの格好のネタになり全病院の調査から派遣医師をめぐる大学医局の在り方が問われ、「白い巨塔に迫る」と題して大々的な報道へと進んだ。若手医師派遣の裏には多額の研究費が医局に献上されているとの報道に少なからぬ驚きと怒りを覚えた。やがて若手医師を派遣した責任者は誰なのか、教授自身に何らかのメリットがあるので

はないかとのマスコミ論調が吹きまくり、ほとんどの臨床系教授がターゲットにされた。自宅にまで取材に来る記者がおり、私は事実を正確に把握してほしいとまず医局会計を公開した。研究室に来て実験の様子を見たり、アルバイト先を取材する記者もいた。数か月を経て有力紙の論調は大きく変化した。

問題は地域医療をめぐる政策上の貧弱性にあり、若手研究者育成の観点の欠落にあり、大学の研究費の乏しさにある事がようやく理解されたのである。

しかしこれ程までに世の中を騒がせたのであるから、誰かが「責任」な

るものを取らなければ世の中が収まらない。大学本部は当該教授全員を処罰する方針を取り、私をはじめ数多くの教授が戒告処分を受けた。叙勲に当りどう論議されたのかを知らないが、その後社会がこの問題をどうとらえ、どう対応してきたのかといった観点から見直された結果かとも愚考した。それを支えたのは北大医学部の実に健全で揺るぎない運営、歩みであり受章の大きな力になった事は間違いない。

重ねて各位に深謝を捧げつつ型破りの叙勲考となりました事をご容赦下さい。

平成29年度 医学研究院・医学部医学科各賞受賞者

特別賞



北海道大学
名誉教授

おお うち
大浦 武彦
(33期)

業績名：形成外科学の発展ならびに褥瘡や重症下肢虚血治療・ケアの充実に関した社会貢献

突然、今回特別賞をもらうこととなった。その存在すら知らなかったが資料をもらってみると錚々たる人物の名が連なっていた。この列に私の名も連ね

ていたいただけとは名誉なことである。

実は私事でありますが、北大を退官後北大時代の最先端医療であった形成外科は後輩に任せ、その頃、医療の谷間にあった褥瘡と足病を取り上げ、まず各々の学会を設立しました。褥瘡患者や足病患者を掘り起こし、これらの疾患に悩む方々を助けるため、以下のような行動を起こした。

I 褥瘡分野における活動

大浦は日本褥瘡学理事長として、学会員を指揮して次の事を行った。

1. 日本褥瘡学会を設立した (1999年)。
2. 日本の褥瘡現状把握と日本人の褥瘡危険因子を検出した。
3. 厚労省は大浦らの報告を基に褥瘡対策未実施減算指針を出した。
4. 褥瘡状態の評価法 (DESIGN-R) を設定した。
5. 栄養の重要性をRCT研究で検出した。
6. 不適切な体位変換は動的外力を引き起こし褥瘡治癒を遅らすと警告した。

II 下肢救済・足病分野

大浦は、日本下肢救済足病学会理事長とし、学会を指揮し日本における100年の足病の遅れの取り戻しに努力している。

1. 日本下肢救済・足病学会設立した

- (2009年)。
2. 透析患者の四肢切断症例数の削減を行った。
3. “足病の教科書と足病の小冊子”を出版し、足病の普及に貢献した。
4. 免荷を考慮した足病の外來治療の方法を提案した
(平成29年度の厚労省指定研究大浦研究班は下肢潰瘍・壊死の治療の際に常に起立・歩行を考え免荷をしながら治療する方法を提案し、医療費の削減を図った)。
5. 下肢血流測定器の開発をした。
6. 腎移植の推進を図る。

日本移植学会と日本透析医学会の協力のもと腎移植を進めている。

以上

優秀研究賞



公衆衛生学教室
教授

たま こ
山腰 暁子
(会員2)

業績名：コホート研究による生活習慣を基盤とした疾病関連要因の解明

この度は、平成29年度優秀研究賞を賜り、大変光栄に存じます。社会医学系への授与は初めてとのことで、人を

対象として実施される長期にわたる研究とその成果を北海道大学大学院医学研究院の先生方に評価いただきましたことに心より感謝申し上げます。

私が大学卒業後に入りました教室(名古屋大学)は疫学的手法を用いて、コホート研究や症例対照研究、あるいは全国の難病患者数の推計等を行ってまいりました。人で起きていることは、最終的には人を対象とした研究からしかわかりません。特に長期の生活習慣

が健康に与える影響は、動物実験からは結論付けられず、また日常と異なる環境を要求する介入研究から明らかにすることも困難です。私が長く従事しております全国規模の多施設共同研究 JACC Studyは名古屋大学(当時：青木國雄教授)を中心に1980年代後半に約11万人を対象に追跡を開始、これまでに日本人のがん、循環器疾患をはじめとする各種疾病の危険因子、予防因子を生活習慣を中心に明らかにしています。さらに他のコホート研究と協力して、頻度の低い疾患や生活習慣を検討することにより、「日本人のためのがん

予防法」や健康日本21(第二次)の根拠データも提供してきました。このような研究は、もちろん1人で成し遂げられるものではなく、多くの先輩、同僚、共同研究者、そして後輩達と共にいただいた賞だと感じております。

北海道大学に異動後は、道内の自治体との協力の下、複数の調査を開始しており、今後、追跡情報を集めていく予定です。同窓会の皆様におかれましては、ますますのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

優秀論文賞



免疫・代謝
内科学教室 教授

あつみ たつや
渥美 達也
(64期)

論文題目：Clinical benefit of 1-year certolizumab pegol (CZP) add-on therapy to methotrexate treatment in patients with early rheumatoid arthritis was observed following CZP discontinuation: 2-year results of the C-OPERA study, a phase III randomised trial

「優秀論文賞を受賞した」

このたびは榮譽ある北大大学院医学研究院・平成29年度優秀論文賞をいただ

き、たいへん光栄に存じます。吉岡充弘研究院長はじめ、これまでご指導いただきました医学研究院ならびに同窓会の皆様に、あらためまして御礼申し上げます。

私は昭和63年に北海道大学医学部を卒業いたしました。内科学第二講座へ大学院生として入局、初期研修医として経験した関節リウマチ(RA)の症例はたいへん印象的でした。当時は「慢性関節リウマチ」とよばれたRAには「慢性的な治療法がなく、全身のあらゆる関節が破壊された患者さんに出会いました。メトトレキサート (MTX) がRAの治療薬として米国で承認されたのがちょうど私が医師になった1988年でした。そこで、北大でもMTXを使おうと

いうことになり、研修医であった私は先輩達と文献の抄読会をしました。そこに書かれていたのは、MTXはRAに効果があるけれど肝臓に障るくすりなので、MTXを使用するときは3ヶ月ごとに肝生検をすべきである、ということでした。ずいぶんたいへんなくすりなんだな、と思いました。それから月日はながれ、本邦でも2003年に導入された分子標的療法が格段に効を奏し、RAの治療のパラダイムシフトといわれるようになりました。私は、投与可能な限界量までのMTXに併用してTNF α を標的にした治療を発症直後のRA患者におこない、1年間ののち寛解にはいついたら抗TNF α 療法を終了して次の1年観察する、というプロトコル(C-OPERAプロトコル)の関節破壊抑制効果を検証する多施設試験(治験)をおこなう機会がありました。発症早

期に強力な治療介入をおこなうことで2年目になっても約85%の患者さんにまったく関節破壊を残すことなく治療できることを証明したこの試験の結果は、昨年の第一報につづいて(昨年も優秀論文賞をいただきました)リウマチ学領域のトップジャーナルのひとつであるAnn Rheum Disに採択され、本年も優秀論文であると認めいただきました。

今回の優秀論文賞は、教室員全員のこれまでの努力に対して与えられたものと考えます。この場をお借りして、医学研究院 免疫・代謝内科学教室、北大病院内科IIの皆様に、こころより敬意を表したいと思います。

同窓会の皆様におかれましては、当教室に対するますますのご指導、ご支援を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

フラテ祭2018 9月開催

フラテ祭2018を、9月30日(日)に開催いたします。

フラテ祭は、平素からご支援をいただいております関係各位と医学部の親睦をさらに深め、医学部の現状を見ていただくことにより今後の抱負や課題を認識していただくための場として、2007年9月に第一回を開催いたしました。

第十二回を迎える本年度も、北海道大学ホームカミングデーと同日開催いたします。北大医学部の変化・革新をお伝えしつつ、なごやかな催しとなるよう、準備を進めております。

詳細につきましては、同窓生の皆様方へは7月中旬頃改めてお送りするご招待状にて、お知らせいたします。ふるってのご参加をお待ち申し上げます。

ております。

フラテ祭実行委員会事務局

TEL: (011) 706-5012

FAX: (011) 706-7855

日 時: 2018年9月30日(日) 午後～
場 所: 北海道大学医学部/フラテ会館



平成29年度フラテ研究奨励賞報告

選考委員会委員長
渡邊 雅彦(会員2)

平成29年度フラテ研究奨励賞には8件の応募があり、各委員が事前に応募者全員の研究業績を審査し、昨年12月28日に開催した選考委員会で、研究業績、研究計画の発展性について多様な観

点から審査を行った結果、次の5名を受賞者として決定しました。

授賞式は本年2月11日に札幌パークホテルで行い、浅香正博同窓会長(48期)から表彰楯及び研究奨励金が贈呈され

ました。

本賞は、医学部同窓会の若手会員(応募の年度末で40歳未満)に対し、創造的研究の育成に資することを目的に創設されたものであります。平成15年度

の第1回から数えて第15回となる今回の受賞者を含めてこれまでに60名の方々を顕彰し、その多くが受賞後も期待どりの研究業績を挙げています。

「受賞の喜び」

(順不同)



北大病院
消化器外科 I
特任助教

吉田 雅
(79期)

研究課題: 同種異系膵島移植におけるc-Fos/Activator protein-1阻害法を用いた新規免疫抑制療法の確立

フラテ研究奨励賞受賞の喜び

この度、平成29年度フラテ研究奨励賞を受賞させて頂きました。大変名誉ある賞を頂き、誠に光栄に存じます。また、受賞に際しまして、選考委員会の先生方、同窓会の先生方、事務局の方々へ御礼申し上げます。

膵島移植は、1型糖尿病患者への根治治療と期待されています。膵臓をコラゲナーゼ等の酵素を用いて分解し、単離した膵島を経門脈的に肝内へ移植します。1977年にミネソタ大学で初めてのヒトへの膵島移植が行われ、発展を

遂げてきました。しかしながら、移植後の炎症や拒絶反応による膵島破壊などの問題点が数多く残っています。本研究では、転写因子Activator protein-1(AP-1)に着目し、拒絶反応を抑制することの可否を検討しました。T細胞のAP-1を阻害すると細胞性免疫が抑制され、グラフト生着延長効果が得られることが分かりましたので、今後は既存の免疫抑制療法との併用療法なども期待されます。

最後に、このような研究の機会を与えて、ご指導して下さい、前移植外科科学講座特任教授山下健一郎先生、前消化器外科科学教室I教授藤堂省先生、消化器外科科学教室I教授武富紹信先生をはじめ、消化器外科I教室員の先生方へ深く御礼申し上げます。今回の受賞を励みに、今後も精進して参りたいと思っております。



自治医科大学
分子病態治療研究センター
再生医学研究部 准教授

魚崎 英毅
(80期)

研究課題: 多能性幹細胞から成熟型心筋細胞を分化誘導する研究

フラテ研究奨励賞を受賞して

在学中から再生医学に関わる研究をしたいと思っていた私は、大学卒業後すぐに北海道を離れ、京都大学系列で卒後臨床研修、大学院へと進みました。その後はジョンズ・ホプキンス大学、自治医科大学で研究を続けており、北海道大学とは縁なく過ごしております。そのような中、フラテ研究奨励賞に選んで頂き、大変ありがたく感じております。

さて、私は大学院の時より一貫してES細胞やiPS細胞から作り出した心筋細胞を使った研究を行っています。とは言

え、いわゆる再生医療より、むしろ発生生物学や細胞生物学などの基礎分野が近い。ES細胞やiPS細胞は体の中の全ての細胞になりますが、試験管の中では多くの場合、胎児型の未熟な細胞にしかありません。心筋細胞も同様です。どのように心筋細胞が成熟するのかを理解することで、大人の成熟した心筋細胞を使った疾患研究への展開が期待されます。心臓というのは発生学的に見ると最も早くに機能し始める臓器ですが、心筋細胞は、形、生理学的な機能など様々な点で、胎児期から思春期頃まで継続して成熟が進むことがわかっています。しかし、その原理は不明な点が多く、現在ではその解明に向けた取り組みを進めており、面白い結果が出つつあります。

今回の受賞をきっかけとして、フラテ同窓会の皆さまとも一緒に研究ができればと思っております。



北大病院
耳鼻咽喉科 医員

鈴木 正宣
(81期)

研究課題: 耳鼻咽喉科頭頸部外科領域の炎症、免疫疾患における集学的治療戦略

この度、フラテ研究奨励賞を頂きありがとうございました。非常に光栄に思います。

今、私は、耳鼻咽喉科領域の炎症性疾患、特に難治性副鼻腔炎に対する集学的治療の開発に携わっております。近年、難治性の副鼻腔炎が増加しており、複数回の手術でも制御できない症例も存在し、患者さんはもちろん医療経済の面でも大変な負担となっています。

私は、幸いなことに、副鼻腔炎で世界をリードするアデレード大(オーストラリア)に留学する機会を頂きました。最先端の内視鏡手術を学ぶと共に、

鼻上皮の自然免疫に関する基礎研究を行い、下手な英語で現地の学生の指導までしてきました。指導した内容全て、大学院時代の医化学分野(畠山教授)の受け売りですが、これは内緒です。

帰国後は、学んだ手術手技を臨床で実践すると共に、第2外科のご協力の元、カダパートレーニングにも携わっております。アデレード大との共同研究も続けており、昨年度も手を動かし実験してきました。研究を進める度に、やらねばならぬ事にやりたい事が加わり、心がどんどん自由になっていきます。知的好奇心の赴くまま研究させて頂いていること、本間教授はじめ医局の皆様、家族に大変感謝しております。

今後も、基礎と臨床の垣根を越え、日豪の距離も越え、研究を進めてまいります。ご指導ご鞭撻、どうぞよろしくお願い申し上げます。



北大病院
皮膚科 医員

渡邊 美佳
(83期)

研究課題: 17型コラーゲンの表皮恒常性維持における役割の解明

この度は北大同窓生として、このような名誉ある賞を受賞させて頂き大変光栄に存じます。受賞に際し、選考委員及び同窓会の先生方に深く御礼申し上げます。今回、受賞させて頂いた研究は、大学院博士課程におけるもので、皮膚基底膜蛋白の一つである17型コラーゲン(COL17)ノックアウトマウスの表皮における表現型解析についてです。既にCOL17の毛包幹細胞における役割は解明されていましたが、毛のない毛包間表皮におけるCOL17の役割は不明でした。当初COL17欠損にて皮膚は薄くなると予測していたのですが、

結果は反対でCOL17が欠損するとWntシグナルを介して新生仔期には毛包間表皮が厚くなり過増殖することが明らかとなりました。また、COL17ノックアウトマウス、ヒトにおける遺伝的な欠損である接合部型表皮水疱症の患者さんが皮膚で早老化的表現型を示すことから、加齢時におけるCOL17の動態に着目したところ、基底細胞を取り囲んでいるCOL17が減少し表皮過増殖となることを発見しました。研究は結果が出ない時も多々ありましたが、少しずつ新しい事象を発見できた時の喜びはかけがえのないものでした。この受賞を励みに、今後も少しでも研究に精進していければと思っております。今後ともご指導・ご助言の程よろしくお願い申し上げます。



北海道大学大学院医学研究院
連携研究センター
分子・細胞イメージング分野
機能画像科学教室 特任助教

小林 健太郎
(84期)

研究課題: メチオニンPETの新たな解析法による脳腫瘍の生命予後

フラテ研究奨励賞を受賞して

この度はこのような名誉ある賞にお選びいただき大変光栄に存じます。核医学の先生方をはじめ、脳神経外科の先生方、薬剤合成グループの先生方と共同して、結果に結びつけることができました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。今回、受賞対象となった研究課題「メチオニンPETの新たな解析法による脳腫瘍の生命予後予測」で

は、PET画像から得られる脳腫瘍の代謝volumeの指標と、生命予後を比較しました。現在までPET画像の評価といえばSUV max(maximum of standardized uptake value)という指標が最も広く用いられますが、これは腫瘍内の単一のvoxelのみを反映しており、腫瘍全体の集積という情報が含まれておりませんでした。そこで今回、腫瘍全体の集積を反映した指標を用いて検討を行い、

従来のSUV maxよりも生命予後を反映することを示しました。最近では体積指標のみならず、腫瘍内集積の分布の違いを指標化するTexture解析の手法を取り入れ、脳腫瘍はもとより全身の悪性腫瘍を対象に研究を進めています。また、メチオニンに関しては合成装置の薬事承認を目指した前向きな試験に取り組んでいます。今回の受賞を励みにますます精進してまいりたいと思います。

平成30年度 フラテ研究奨励賞受賞候補者の募集!!

《フラテ賞》

- ・平成30年度フラテ研究奨励賞受賞候補者を次のとおり募集します。
- ・本賞は、医学部同窓会若手会員の創造的研究の育成に資することを目的に創設され、平成15年度の第1回から数えて昨年度までに60名の方々が受賞しています。
- ・第16回目の募集となる今年度も、多くの会員が奮って応募されることを願っております。

《授賞件数等》

- ・授賞件数15名以内、受賞者には表彰額及び研究奨励金20万円を贈呈します。

《応募資格、募集期間等》

- ・応募資格 平成30年度末（平成31年3月31日）現在、40歳未満である本学会員で、年会費を完納している次のいずれかに該当する者とします。

- ①北海道大学医学部医学科を卒業した者
 - ②前号以外の北大医学研究科または北大医学院を修了した者（応募する年度末までに修了見込みの者を含む）で、応募する年度の末日現在2年以上の同窓会員歴を有する者
 - ③第1号以外の北大医学研究院の教員で、応募する年度の末日現在2年以上の同窓会員歴を有する者
 - ④第1号以外の北大病院の教員または医師で、応募する年度の末日現在2年以上の同窓会員歴を有する者
- ・募集期間 平成30年10月1日から10月31日までの1ヵ月間です。

※申請書提出時において会費未納の方がおられますので、ご注意ください。

《応募書類等》

- ・応募書類（申請書、推薦書、業績別刷）の提出部数は6部（コピー可）としま

す。応募書類は一切返却しません。

- ・応募書類を封筒に入れて、「フラテ研究奨励賞応募書類在中」と朱書き、郵送または持参すること。

①郵送は必ず「簡易書留」としてください。10月31日までの消印のあるものは有効とします。

②郵送した場合は直ちに、応募者氏名、郵送日を電子メールにより同窓会事務局へ連絡してください。

③郵送（持参）先
〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目
北大医学部内
北海道大学医学部同窓会事務局

- ・申請書は同窓会ホームページからダウンロードしてください。北大医学部同窓会で検索して、左上部のContents「フラテ研究奨励賞」から入ってください。

北大医学部同窓会

検索

《選考結果の発表、授賞式等》

- ・受賞者が決定次第、北大医学部掲示板及び同窓会ホームページで発表するとともに、応募者全員に選考結果をお知らせします。
- ・授賞式は、平成31年2月に開催する同窓会総会で行う予定です。
- ・受賞者には、授賞式への出席及び同窓会新聞への寄稿をお願いしています。
- ・ご不明の点は、同窓会事務局にお問い合わせください。

電話 : 011-706-5007

E-mail : furate@med.hokudai.ac.jp

新世紀の医学に向けて (32)

死因究明教育研究センター

ひびょう 兵頭 秀樹・的場 光太郎(81期)・南須原 康行(64期)

平成26年6月に「死因究明等推進計画」が閣議決定され、死亡者の死因究明や身元確認等が重要な公益性を有するものとして位置付けられ、死因究明等に係る実施体制の強化と死因究明等に係る人材の育成および資質の向上にむけた取り組みが計画されました。この計画の一端として、本学医学研究院に平成28年4月に死因究明教育研究センターが開設され、院外死亡例及び院内死亡例について、客観的な死因究明手技の開発・研究・普及、並びに担当する医療従事者（勤務医・警察医）等に対する死因究明に関する教育を行うことが計画されました。

当センターは、まず法医学部門及び臨床法医学部門が実働を開始し、病理学部門、オートプシー・イメージング(Ai)部門、法歯学部門、医療安全管理部門が加わり、死因究明・外傷評価・身元確認等に係る教育・研究拠点として活動を展開するとともに死因究明等に携わる人材の育成に当たっています。特に法医学部門・病理学部門・Ai部門と医療安全管理部門は、院内で死亡した患者に対する死亡原因の究明を綿密に連携し実施しており、すでに具体的

な成果を上げるまでに至っています。具体的には、不幸にして急死した患者に対して実施された解剖結果について、各種行政機関との連携を図り、医療事故調査制度を活用し、病院側並びに遺族側双方と情報の共有を通じて遺族に対する十分な説明を行い、医療安全の向上に貢献できるように連携しました。このような取り組みは、当センターのような複数部門の連携がない限り不可能であり、今後、病院における医療安全推進の手法の一つになるものと考えられます。

法医学部門では、取り扱う事例の特性から、GC-MS/MSやLC-MS/MSといった薬物分析装置を利用する機会があります。これらの装置は、オリンピック開催年にしばしば話題に上るドーピング検査にも使用されている装置であり、たとえば25mプールに薬物をスポイト1滴混入させた場合でも、定性評価は無論のこと、定量評価もまた可能な分析装置です。法医学においては死後画像診断や肉眼解剖に加えて薬物中毒等を特定する手法としてルーチン検査として用いられています。先般、関東地方で入院患者40名以上が短期間に

死亡し、2名から界面活性剤が検出されるという痛ましい事件が発生しました。近い将来、同様の事件が同窓会の諸先生の医療機関で発生しないとも限らない事件であり、院内で多数の死者が発生するまで発覚されなかったことは衝撃でした。いかに同様の事件（事故？）を未然に防ぐことができるかに注目が置かれていますが、法医学的にはいかに再発を防ぐことができるかが出発点となります。当センターでは、法医学部門・医療安全管理部門・病理学部門の共同の取り組みとして、死亡事例の採血・採尿・微量分析の実施により、こうした課題の解決の糸口をつかめるのではないかと考えました。そこで、現在までに新たなLC-MS/MS・GC-MS/MS各1台を追加購入し、薬物分析の精度向上を図っています。平成30年2月から受け入れを開始した、Ai部門における他の医療機関からの死亡時画像診断読影と同じように、今後、薬物検査を実施することも計画しています。

当センターでは、様々なテーマについて国内有識者の先生方をお招きして講演会を開催しています。昨年までに

計4回のセミナーを実施し、法歯学（身元確認法）・児童虐待（手順や解釈・国内制度）・診療関連死（国内制度・運用状況）・Ai（撮影・読影）に関しての講演を通じて知識のアップデートを図っています。今後も機会ごとにテーマに基づいた講演会を実施していくとともに、IT等の手法を使った遠隔セミナー視聴についても実現していきたいと考えております。ご興味のある先生がおりましたら、是非ご連絡いただけますようお願いいたします。

すでに我が国は超高齢化社会を迎え、今後ますます死亡者が増加することが予想されており、それに伴い医療提供時に予期できない死亡事例の件数も増加すると考えられています。提供した医療がいかに確かなものであるか、あるいは死亡に至った原因は不可避の状況であったかを客観的な情報を基に明らかにしていくことが、当センターの重要な使命の一つと考えています。事実を明らかにし、患者側のみならず医療者側にも納得のいく結論を提供できるよう、今後も精進してまいりたいと考えています。皆様にはご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

エルムの仲間達へ⑧ 『核医学・病理学におけるAI活用の可能性』



核医学教室助教

ひらた けんじ
平田 健司
(78期)



腫瘍病理学教室助教

いしだ ゆうすけ
石田 雄介
(75期)

ここ数年の人工知能ブームには目を見張るものがあります。テレビや新聞に人工知能あるいはAIという言葉が頻りに登場します。医師や学生はこのブームをどう捉えればよいのでしょうか。現在核医学教室・腫瘍病理学教室で取り組んでいる内容についてご紹介します。ディープ・ラーニング(DL)は、画像処理では畳み込みニューラルネット

ワーク(CNN)と呼ばれます。生物の神経回路を模した計算システムで、入力（画像の各画素）から何回もシナプス結合を介して出力（例えば診断名）を得るものです。訓練過程では、既存の教師ありデータ（正しい診断名付きの画像）を用いて、ある入力から正解が得られるように、シナプス結合の強さを調整、最適化します。訓練を終えると、入力

層に近いほうのニューロンは、プリミティブな形状（直線とか円とか）を認識し、出力層に近づくと、高度な形状（顔など）を認識するような役割分担が自然に出来上がります。これは人間の脳が一次視覚野から連合野へ投射するようすと類似しています。訓練が終わると、今度は入力層に新規データを与えることで診断名を予測します。

DLあるいはCNNを行うにあたって必要なものは、膨大なデータを高速に計算するコンピュータです。1つのニューロンが多数のニューロンに投射する回路を、加重平均で表しますので、大部分の計算は行列の積で表される点がポイントです。通常のCPUに行列演算をさせると、行列の各要素の計算を逐次行うため、行列が大きくなるとそれに比例して計算時間がかかります。そこでCNNの計算は3次元グラフィックスを高速描画するためにPCに備わっている基盤のGraphics Processing Unit (GPU)に処理させるのが一般的です。汎用性を犠牲にして行列演算に特化することで、高速並列演算を行います。核

医学教室ではNVIDIA製GeForce GTX TITANを4基備えたコンピュータを設置し、日々実験を行っています。DLまわりのソフトウェア環境も充実しており、Pythonを使えばTensorFlowやKerasといったパッケージが無料で使えますし、DIGITSを使えばプログラミングなしでも画像分類や回帰といった基本的な技術を使用できます。神経回路も深層化が進んでおり、入力から出力まで数百回のシナプスを介するものも出てきています。

核医学教室では、PET画像の自動診断に向けて研究を行ってきました。脳腫瘍のFDG PET画像を与え、神経腫瘍か悪性リンパ腫かを診断させる課題では、80%程度の正診率を得ました。また脳腫瘍の描出に優れるメチオニンPETでは、腫瘍の存在するスライスを90%以上の正診率で予測し、さらにスライス内での腫瘍輪郭を決定する課題にも取り組んでいます。循環器領域では、心臓へのFDGの分布から心サルコイドーシスを診断できますが、集積の度合いではなくパターンが重要であるため、

CNNによる診断を試みています。全身FDG PETでは、画像から性別や年齢を推定して患者誤認事故を防止するシステムや、過去の読影レポートと関連させながら読影法自体を人工知能に学習させようという遠大な計画も動き始めました。

病理診断の分野でもAI活用が計画され、日本病理学会が日本放射線学会・消化器内視鏡学会と連携してAMEDの共同研究を始めました。腫瘍病理学教室もGPU (nVidia GTX1080Ti) 2個を計21万円で導入しAIサーバを立ち上げ、また有志の学生や院生と隔週の勉強会も始まりました。診断への応用では脳腫瘍の病理診断でも特に難しいグリオーマと悪性リンパ腫を用いたテストで、教師データとして免疫染色などで確定診断された症例各3例の約3000枚の画像を学習・収束させたモデルが、未知の症例12例から10例を正しく区別でき、医学生レベルを超えたようです。今後、より多くの症例の蓄積でモデルを洗練し、専門医以上の正診率を目指します。

人工知能をどう使うか、人類は試されているように思います。放射線科医はAIによって失業するだろうという予測も聞かれますが、まったく見当違いであると思います。むしろ、リンパ節のサイズの計測とか、前回検査との比較といった単純作業をAIに任せて、人間は情報の総合や創造といった高次の課題に十分な時間を使うことができます。北海道大学が人工知能の領域で世界をリードしていくことを願ってやみません。学生のみみなさんからリクエストがあれば短期集中セミナーを開催することも考えています。khirata@med.hokudai.ac.jpへご連絡ください。



核医学のAIの解析中の画面。光っているのが4基のGPU。

秩父宮賜杯 第49回全日本大学駅伝対校選手権大会出場報告



研修医

土橋 晋也
(94期)

私が6年間所属した全学陸上部から選手として参加した秩父宮賜杯 第49回全日本大学駅伝対校選手権大会（2017年11月5日開催、以下全日本大学駅伝）について報告させていただきます。なお、大会出場が叶ったのは、私の最後のチャンスにあたり、本当に頑張ってくれた全学チームの後輩たちのお蔭です。

大学生の駅伝といえば箱根駅伝というイメージがありますが、箱根は関東の大学のための大会です。大学の全国大会は全日本大学駅伝になります。北海道からは8月の予選会で優勝した1校のみが全日本大学駅伝に進めます。スポーツ推薦などで駅伝に力を入れている大学が長年北海道の王者を譲らず、北大は20年間優勝から遠ざかっていました。ここ数年、北海道の一部の大学がルールの際を突くようなやり方で選手を集めることが問題視されていますが、五輪マラソン入賞の35歳超の外国人を学生として登録してきたときにはさすがに驚きました。このように北海道の学生陸上界が荒れてきていた中で北大が優勝したことは、色々な関係者が学生競技のあり方を再考するきっかけになると信じています。

さて、全日本大学駅伝は合計106.8kmを6時間以上かけて8人でタスキを運び

ます。一人10km前後、アンカーが最長の20km弱を走るのは予選会も本大会も同じです。駅伝では前半に流れを作ることが勝利の鉄則になっています。不思議なことに、前半区間で流れを作ったチームは後半区間も好調を維持します。逆に前半区間で出遅れると、後半区間の選手は焦ってオーバーペースで前を追いつき、レース後半にバテて、さらに差が開いていきます。これは、テレビ中継でお馴染みの展開と思います。北大は実力ある下級生たちをどんどん前半に入れて伸び伸び走って、どんな順位でタスキを受けても、アンカーの私がしっかり優勝を決める、という戦略が予選会では見事にハマりました。ただし、全日本大学駅伝ではそもそもの実力差がありすぎて、チームは下から2番目という結果でした（25大学中24位、優勝は神奈川大学）。

私にとって駅伝は、全学のチームで生き残っていくための最終手段でした。高校では実力不足で選手にはなれず応援に終始、選手への憧れだけで終わってしまいました。大学では何とかやってやろうと思って浪人中に練習を積んで入学しましたが、安田大成先生（医バスケットOB）、西澤仁貴先生（医サッカーOB）という医学部の同期にさえ1500mのタイムで負けています。それでは全学で相手にされるわけもなく、やはり大学でも応援で終わりがなあと考えていたところ、10km、20km、マラソンと長くなっていくと徐々に自分の良さである粘り強さが出てくること

がわかりました。20km弱の駅伝アンカーがあったおかげで生き残ることが出来ました。

全日本大学駅伝に関しては色々話題にいただきましたが、私自身は意外と冷静で、むしろ冷めていました。全日本の取材が来た時には、騒がせてしまいごめんなさいと医学部同期の皆さんに対して思っていたくらいです。そんな私とは対照的に、佐藤元哉先生（医テニス部OB）をはじめとした同期が取材番組を宣伝してくれました。他人事と思わず応援してくださったその温かい気持ちに強い感銘を受けました。そもそも私が冷めていたのは、学生競技は狭い世界で、マラソン界の主流は市民ランナーであること認識していたからだと思います。だから市民ランナーから学ぶべきだと私はずっと思っていました。すなわち、日々の仕事だけでさえ大変なのにベストを狙おうとする姿勢です。この人たちの覚悟が違うな、本気だなんて感じさせられます。そこにレベルなど関係ないのです。北大医学部同窓会に所属する市民ランナーの先生方は、ランナーとしての熱意も強い方ばかりだと感じています。私は埼玉県出身ですが、北海道での8年間で強くしてもらったという思いが強く、将来は北海道に残り医師として恩返ししようと思っています。医師として1年目、市民ランナーとしても1年目の私をこれからよろしく願っています。

医師国家試験最終日（2018年2月11日）の夕方に開催された同窓会新入会員歓

迎会で教授を含む多くの先生方から、「さすがに国試の朝は走らなかったのだろう、勉強もよく頑張ったねえ」などと声をかけていただきました。なお、「国試の朝も走っていました」と正直に話す度量は残念ながらまだ持ち合わせておりませんでした。

最後になりましたが、全学の活動が注目されることが少ない中、同窓会新聞というご紹介の場をいただけたことを本当にありがたく思っています。今までの競技生活で得た根性と身体の丈夫さを今後は研修医生活に生かせるよう日々精進しますので、ご指導よろしく願っています。



医学部交換留学体験記

昨今のグローバル化の流れを受け、若い世代の内向き志向を克服し、世界で活躍できる人材の育成を図る試みとして、北大医学部は世界各地の医学校と協定を結び、医学生を受け入れ及び送り出しを行っています。大学間ないし部局間の協定に基づくため、授業料は免除され、宿泊・交通費も大学から一定の補助があります。私自身は平素

より留学生の受け入れのほうにささやかながら関わらせていただいておりますが、いずれは海外の医学校に学びに行きたいと考えております。留学を考えている学生の参考とすべく、今回は実際に交換留学に行かれた3名の先輩方にそれぞれの留学の様子についてご寄稿いただきました。

(97期 飯田圭祐)

The Elective in Hong Kong (期間4週間)



増田 海平
(94期)

2017年6月、香港大学 Li Ka Shing Faculty of Medicine で内科系クラシックに参加しました。

香港大学を選んだ理由は、香港では医学教育は英語で行われており、コミュニケーションがある程度とりやすいと思ったからです。

補助金は10万円頂きました。航空券は札幌から直行便で約6万、学生寮は1ヵ月で3万円くらいでした。

実習では学生9人で構成されるグ

ループに参加しました。毎週病棟が変わるため、あらゆる分野の症例を勉強しました。講義や外来に参加したり、ベッドサイドで患者を診察し問題を提起しディスカッションする Bedside PBL という実習に参加したりしました。

現地の医学生は常に『なぜ』と考え続けていました。患者に何が起きているのか、診断方針あるいは治療法・慢性期管理、など。放課後は UpToDate などを駆使して勉強していました。英語が使えるとリソースの範囲が広がり新しい情報へのアクセスもしやすくなるので大切だと実感しました。

また各々の内科医の守備範囲が非常に広いです。糖尿病や高血圧など common な疾患の診断・治療・管理はど

の分野の内科医でも行っていました。大動脈解離の慢性期管理を腎臓内科医が行っていたり、外来でパーキンソン病の診断を肝臓内科医がしたりしている光景も目にしました。内科医が守備範囲を広く持つことは、高齢社会に直

面し色々な病気を掛け持つ患者さんが増えつつある日本でも今後重要になるのではないかと実感しました。

この実習で得た新たな知見は今後の自分に良い刺激を与えてくれるだろうと実感しています。



現地の学生たちと

シンガポール留学体験記 (期間4週間)



糸賀 稔
(94期)

札幌では聞かない小鳥の鳴き声を背景に、朝早くからホテルを出る。シンガポールという南国の朝は、いつも独特の香りをまとっていた。この国を支えている移民に紛れながら、町はずれにある Khoo Teck Puat Hospital へと向かう。

シンガポールへの留学は、日本とは違う多民族国家の医療はどうなっているのか、またそこでの生活はどのよう

なものなのかを経験したく応募した。

緑化された病棟で指導医師の Rex と合流する。Rex はインド人であった。他にもマレー人や中国人、インドネシア人など様々。院内の公用語はもちろん英語である。しかし、スタッフと同じく多民族な患者に合わせて母国語を使用する場面も多くあった。そのため、医師と患者の会話が突然理解できなくなることがあり、戸惑うこともあったが、日がたつにつれ会話の意味を推測できるようになった。実習中はほとんどを手術室で過ごし、外傷を中心に多くの症例を経験することができた。

シンガポールでの生活は、覚悟して

いたよりも暮らしやすかった。交通機関は日本並みに整備されていた。食事でもホーカーズと呼ばれる屋台で食べれば安く、しかも美味しかった。シンガポール名物のチキンライスは何回食べたかわからない。

今回の留学では滞在費、航空券代を

含めて約70万円かかった。北大から20万円の援助が受けられた。

私の学生生活の中で最もハードな一か月間であり、留学費もかかったが、国内の実習だけでは得られない貴重な経験ができたと思う。後輩にもぜひおすすめしたい。



現地の学生たちと

UAEってどこ? (期間2週間)



田村 俊文
(95期)

今回、国際連携室のトライアル派遣、つまり北大から初めての派遣として、2017年12月上旬から約2週間 UAE の Tawam Hospital で実習を行った。UAE を選んだのは、この機会以外では行かないような国である事といくつかある海外実習先の中で、部活のシーズンと被っていない期間に実習ができるのがこの

UAE だけだったからである(正直、後者が大きい)。そのため、最初は UAE がどこにあるのか、そもそも英語が通じるのかなどわからないことだらけだったが、今考えればかなり貴重な体験をすることができたと思う。病院での実習は循環器内科で行い、毎日濃密なカンファレンスや回診があり、僕にも意見したり、診察する機会が多く与えられ、メンバーの一員として扱ってもらい、毎日学ぶことの多い日々となった。医療の質はあまり日本と変わらず、PCIなども積極的に施行されていた。日本と比べて患者一人一人をチーム全員でより時間をかけて診

ていて、診察から治療の決定までのプロセスを重視しているように感じた。ちなみに医療者同士の会話は全て英語だが、回診中の医師と患者との会話はアラビア語で行われ、当然わからないので英語に通訳してもらっていた。休日には仲良くなった UAE 大学の学生のお兄さんの結

婚式やその前夜祭に参加させてもらい、石油王のような豪邸や晚餐を体験させてもらった。他にも砂漠やドバイなどにも行ったが、2週間では周りきれない程たくさん名所がある国で、観光として行くのもいいなと思った。是非多くの後輩達に UAE で学んで欲しい。



現地の大家族と

北海道大学医学部創立100周年記念事業について

北海道大学医学部は2019年（平成31年）に創立100周年を迎えます。記念事業の実施に向けて、北海道大学医学部創立100周年記念事業実行委員会の下に、募金、百年記念館、展示物等、記念式典等、広報、記念誌刊行の6つの小委員会を設け、準備を進めております。

また、記念事業へのご協力を承諾いただいた同窓会各期の評議員及び予備評議員の方々を中心に、北海道大学医学部創立100周年記念事業後援会を組織しています。

＜100周年記念式典の開催について＞

医学部創立100周年を記念して、下記の日程で記念式典・記念講演会・記念祝賀会を開催することが決定いたしました。詳細は決まり次第、随時お知らせいたします。

【開催日・場所】

日程 2019年10月12日（土）

場所 京王プラザホテル札幌

（札幌市中央区北5条西7丁目）

※100周年を迎える来年2019年の実施で

すので、お間違えないようお願いいたします。

＜百年記念館について＞

昨年秋に、記念館建設予定地の埋蔵文化財調査を終了しております。

記念館の外観は、医学部の歴史的な建築物を継承した、木造を活かすデザインとするコンセプトに決定しました。今後、内部仕様も含め詳細の検討を進め、本年夏頃の着工、2019年秋頃の竣工を目指しております。

展示室には、パネルや全体模型等を配置し、医学部・病院の第1～第3時代の歴史を振り返る展示を検討しています。展示物の一次調査は既に終了していますが、引き続き展示資料に関する情報提供をお待ちしております。

＜募金の協力依頼について＞

100周年記念事業の実施に向けて、同窓生の皆様をはじめとする関係各位に、記念事業基金への募金をお願いしております。特に、同窓会行事や講演会など多目的に使用できる『北海道大学医

学部百年記念館』の建設に向けては、同窓生の皆様のご協力が不可欠です。

2003年に100周年を迎えた九州大学医学部では、6600名もの寄附者がいらっしやうと聞いておりますが、本事業の平成30年4月末時点の同窓生個人としての寄附状況は、408名（寄附率7.5%）にとどまっております。（90周年時は1458名、寄附率24.3%）

つきましては、本事業の趣旨をご理解いただき、格別のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

なお、同窓生個人だけでなく卒業期単位でのご寄附や、分割納付、インターネットでの申し込みも可能です。卒業〇〇周年記念などの周年行事を利用して、各期会においてお声がけいただけるとう幸いです。

※卒業期単位でのご寄附：25期・42期・46期

種 別	個 人	法人・団体	銘 板
プラテダイヤモンド功労賞	1,000万円以上	3,000万円以上	ゴールド(大)
プラテゴールド功労賞	500万円以上	1,000万円以上	ゴールド
プラテシルバー功労賞	100万円以上	500万円以上	シルバー
プラテブロンズ功労賞	20万円以上	100万円以上	ブロンズ
プラテ功労賞	10万円以上	50万円以上	—

募金いただいた方へはお礼状のほか、寄附金額に応じて百年記念館へ銘板を掲示させていただきます。

※寄附者への謝意

医学部長より感謝状の手交（個人50万円以上、法人・団体100万円以上）、百年記念館へ銘板の掲示、等々。詳細は、100周年記念事業Webページをご覧ください。

<http://www.med.hokudai.ac.jp/100th/>

お問合せ先：

北海道大学医学系事務総務課総務庶務担当

011-706-5085、5004

shomu@med.hokudai.ac.jp

2018年度北海道大学医学部、北海道大学病院、北海道大学医学部同窓会合同新年会および北海道大学医学部創立100周年記念事業後援会総会の開催について

幹事長 畠山 鎮次(66期)

北大医学部は一昨年まで、年頭の新年会として、木曜会・二水会合同の新年会が開催されておりましたが、昨年から医学部創立100周年までは北大医学部・北大病院・医学部同窓会の合同新年会として開催されることになりました。昨年度と同様、来年にせまった医学部創立100周年記念事業後援会総会も兼ねて盛大に行うという趣旨で、北大医学部同窓会会員、医学部教員、病院教員はじめ、大学や各医局の幅広い関係者の皆様にご参加いただきました。

本会を盛大に行うために、医学部・病院・同窓会の役職の先生方、同窓会評議員・予備評議員の先生方、また各医局からのご推薦いただきました先生方には参与としてご協力いただきました。

今年は昨年同様、約100名余の方々にご参加いただき、大変盛り上がった会となりました。特に、大学関係者ばかりではなく、同窓会の各期の先生方や市中病院の先生方も多く集まり、同窓会各期、同門会、専門分野などのさまざまな輪のもとに賑やかな交流会とな

りました。当日は、ご挨拶として、医学研究院長 吉岡充弘先生、北大病院長 實金清博先生、同窓会長 浅香正博先生、北海道大学理事・副学長 笠原正典先生からお話をいただき、北海道医師会会長 瀬清先生に乾杯のご発声いただきました。また新春のスピーチとして、富樫武弘先生（41期）、本橋雅壽先生（59期）、笹本洋一先生（60期）からお言葉をいただきました。中締めのご挨拶としては、吉木敬先生（41期）から、100周年に向けての心強いお言葉をいた

できました。そして最後の乾杯として、元医学部長・元同窓会長の齋藤和雄先生に締めていただきました。ご参加いただきました先生方、幹事、事務の方々に心から感謝申し上げます。

医学部・北大病院の先生方をはじめ、同窓生の皆様が来年も「行ってみたい、集まりたい」と思えますように、本会のスナップ写真を掲載いたしますので、ご参照いただけますと、幸いに存じます。来年度もご参加いただけますよう、お願い申し上げます。



吉岡研究院長挨拶



都ぞ弥生の大合唱



同窓会館完成図をバックに左から吉岡研究院長、笠原副学長、桜木名誉教授、浅香同窓会長



北大病院看護部の副看護部長の皆様 左から、新岡 郁子、船木 典子、高橋 久美子、本間 美恵

北海道大学医学部創立100周年記念事業基金

寄 附 状 況

（フロンティア基金事務室からの連絡分（平成30年4月末入金確認まで））

寄附者	件 数	金額(円)
医学部・病院教員等	157	34,910,000
(内訳)		
教授	35	18,300,000
准教授	24	4,800,000
講師	18	3,550,000
助教・助手	52	5,760,000
特任教授	2	400,000
特任准教授	1	300,000
特任講師	0	0
特任助教	8	800,000
医員	17	1,000,000
医学部卒業生	286	101,543,000
病院	42	60,240,000
企業等	27	25,630,000
その他(講座等)	2	17,303,636
その他(同期会)	3	6,733,430
その他(個人:学生の保護者、篤志家、名誉教授(卒業生以外)など)	47	16,580,000
合 計	564	262,940,066

※入金当時の職名でカウント

理事会・評議員会報告

理事会

日 時：平成30年3月29日（木）
午後6時30分から午後7時15分
場 所：医学研究院 中会議室
出席者：理事7名、監事2名、
評議員会議長、副議長

評議員会

日 時：平成30年3月29日（木）
午後7時30分から午後8時15分
場 所：医学研究院
学友会館「フラテ」大研修室
出席者：評議員、予備評議員58名
(出席10名、委任状提出48名)、
理事7名、監事2名

【協議事項】

1. 次期評議員会議長、副議長の選出に

ついて

現議長及び副議長の任期満了に伴い、次期議長に福田 論評議員（52期）、副議長に小谷晃司評議員（65期）が選任されました。なお、任期は平成30、31年度の2年間です。
2. 次期役員（理事、監事）の選出について
現役員の任期満了に伴い、篠原 信雄役員候補者選考委員会委員長（60期）から、同委員会が選考した役員候補者（理事13名、監事2名）の選考経緯及び選考結果について報告の後、審議了承されました。
3. フラテ研究奨励賞要項の一部改正について
現在の公募時期11月を、十分な審査日程を確保するため1ヶ月早めて

10月に変更することが、審議了承されました（平成30年4月1日から実施）。
4. 平成30年度会計収支予算（案）について
会計収支予算案について説明の後、審議了承されました。
5. 新入会員歓迎会について
浅香会長から、現在実施している卒業生の入会歓迎会は来年2月の95期生で最後となるが、引き続き卒業生を対象とした歓迎会を毎年医師国家試験終了後に実施するとの説明の後、審議の結果、これが了承された。

【報告事項】

1. 次期評議員、予備評議員について
平成30、31年度の各期ごとの評議員及び予備評議員について報告され

ました。

2. 平成29年度会計収支中間報告について
本年2月末日現在の会計収支状況及び特別会計預金状況について報告されました。
3. 平成29年度庶務、事業報告について
総会及び新入会員歓迎会の開催状況等について報告されました。
4. 平成29年度編集報告について
同窓会新聞及び同窓会誌の発行状況等について報告されました。
5. 医学部創立100周年記念事業について
浅香会長から100周年記念事業の進捗状況等について報告されました。
次いで、吉岡副会長（医学部長）から寄附状況の説明後、同窓生に対して再度協力依頼を行う等今後の募金活動について報告されました。

新役員、評議員・予備評議員名簿

任期：2018年4月1日～2020年3月31日

＜理事・監事＞

役職	氏名	期	勤務先
会 長	浅香 正博	48	北海道医療大学 学長
副会長	佐久間 一郎	55	社会医療法人社団 カレスサポロ 北光記念クリニック 所長
	吉岡 充弘	60	北海道大学大学院医学研究院 医学部長 神経薬理学教室 教授
会計理事	武田 宏司	56	北海道大学大学院薬学研究院 臨床病態解析学研究室 教授
編集理事	田中 伸哉	66	北海道大学大学院医学研究院 腫瘍病理学教室 教授
理 事	長瀬 清	40	北海道医師会 会長
	笠原 正典	56	北海道大学理事・副学長 大学院医学研究院 分子病理学教室 教授
	畠山 昌則	57	東京大学 医学系研究科 微生物学講座 教授
	大場 淳一	58	北海道立子ども総合医療・療育センター 副センター長
	小笠原和宏	59	釧路労災病院 副院長 外科部長
	畠山 鎮次	66	北海道大学大学院医学研究院 化学教室 教授
	大場 雄介	72	北海道大学大学院医学研究院 細胞生理学教室 教授
	近 祐次郎	74	さっぽろ内科・リウマチ膠原病クリニック 院長
監 事	藤井ひとみ	57	社会医療法人 母恋 天使病院 病院長
	橋野 聡	58	北海道大学保健センター センター長

＜編集委員＞

役職	氏名	期	勤務先
委員長	田中 伸哉	66	北海道大学大学院医学研究院 腫瘍病理学教室
委 員	山科 賢児	55	やまな内科クリニック
	南須原康行	64	北海道大学病院 医療安全管理部
	長 裕子	66	北海道大学病院 小児科
	樋田 泰浩	67	北海道大学病院 循環器・呼吸器外科
	矢部 一郎	67	北海道大学大学院医学研究院 神経内科学教室
	神島 保	70	北海道大学大学院保健科学研究院 医学生体理工学分野
	田中 敏	71	死因究明教育研究センター 病理学部門
	石田 雄介	75	北海道大学大学院医学研究院 腫瘍病理学教室
	木佐 健悟	80	俱知安厚生病院 総合診療科
(旭医連総員)	棚橋 祐典	66	旭川医科大学医学部 小児科学講座
顧 問	長瀬 清	40	北海道医師会
	佐久間 一郎	55	社会医療法人社団 カレスサポロ 北光記念クリニック
	柿崎 秀宏	59	旭川医科大学医学部 泌尿器外科科学講座
	富瀬 規嗣	60	札幌医科大学医学部 細胞生理学講座

＜評議員・予備評議員＞

期	評議員	予備評議員	期	評議員	予備評議員	期	評議員	予備評議員
18	大村 茂夫		51	永島 哲郎	武蔵 学	80	木佐 健悟	松島 理明
19	小野 基		52	福田 論	菊田 英明	81	那須 裕也	久保田玲子
23	佐々木裕雄		53	渡邊 正夫	松下 卓郎	82	伊東 慎市	
24	竹村 敏雄	飯田 正一	54	吉田 純一	竹林 武宏	83	清水 智弘	井平 圭
25	小菅 高之	吉田 長平	55	田代 典夫	山科 賢児	84	庄司 哲明	横山 絵美
26	竹内 隆	柴田 淳一	56	西澤 典子	柴田 睦郎	85	河野 修	藤本 隆憲
27	井門 英明		57	小柳 泉	秋田 弘俊	86	西本あか奈	
28	三浦 旭	柳澤 守	58	大野 和則	古御堂 均	87	荒木 大	川島 圭介
30	岸本總一郎	平山 亮夫	59	松野 吉宏	鈴木 康夫	88	福田 直樹	大場 彩音
31	水戸 勉	後藤田隆雄	60	久住 一郎	篠原 信雄	89	脇田 雅大	水門 由佳
32	高下 泰三	景山 正晴	61	佐藤 典宏	後藤田裕子	90	押野 智博	今本 鉄平
33	能中 陽一		62	川浪 貴		91	(未定)	
34	多米 豊	坂岡 博	63	加藤千恵次	石川 岳彦	92	半田 悠	大浦 峻介
35	田島 邦好	小池 章之	64	加藤 正仁	小川 秀彰	93	鎌田千奈美	玉手なつみ
36	近藤 浩	高杉 佑一	65	小谷 晃司	森田 研	94	原田 拓弥	田中 翔
37	後藤 康之	浅野謙一郎	66	尾島 裕和	鈴木 清護	専2	三部 重喜	山田 功
38	青柳 孝一	笠原 直子	67	矢部 一郎	増谷 学	専3	金川 宗一	橋本 行夫
39	鈴木 重統	鎌田 覚	68	南場 研一	古本 智夫	専4	吉尾 弘	伊藤 敦
40	南 勝	阿部 和厚	69	外丸 詩野	中島 泰志	専5	佐藤 雅夫	高橋 尚克
41	富樫 武弘	江端 英隆	70	相澤 寛志	三浦 淳	専6	山岸 薫	
42	小林 邦彦	山下 幸紀	71	清水 伸一	安部 崇重	専7	斎藤 秀夫	
43	三上 一成	関谷 千尋	72	小林 徹	泉山 康	専7新	櫛原 勉	
44	中村仁志夫	石橋 輝雄	73	西田竜太郎	野呂 紀子	会員2	渡邊 雅彦	大滝 純司
45	宮坂 和男	藤 建夫	74	田代 淳	江川 潔			
46	工藤 俊彦	大宮司 信	75	三山 博史	夏井坂光輝			
47	田川 義継	本間 研一	76	橋本 直樹	加納 崇裕			
48	松野 一彦	小笹 茂	77	三田村 卓	武重宏呂修			
49	川口 秀明	安達 一幸	78	平田 健司	深谷 進司			
50	小林 清一	福田 公孝	79	庄野 雄介	齋藤 晶理			

告知板

＜学内・院内人事異動＞

＜辞職＞

平成30年3月31日 瀬谷 司(52期) ワクチン免疫学分野特任教授(未定)
清水 力(61期) 検査・輸血部准教授(苫小牧保健センター)
石川 岳彦(63期) 先進急性期医療センター講師(未定)
横式 尚司(65期) 循環器内科講師(市立札幌病院)
近藤 健(67期) 血液内科学教室講師(愛育病院)
工藤 俊彦(69期) 消化器内科講師(北海道医療大学病院)
高木 大(70期) 耳鼻咽喉科講師(札幌厚生病院)
丸山 覚(71期) 泌尿器科講師(北海道がんセンター)
栗田 紹子(76期) 精神科神経科助教(未定)
石川 聡司(78期) 産科助教(品川美容外科 千葉院)

井上 哲也(78期) 放射線治療科助教(帯広厚生病院)

＜任期満了＞

平成30年3月31日 松浦 亨(55期) 企画マネジメント部特任准教授(未定)
若山 顕治(78期) 消化器外科学教室Ⅰ 特任助教(札幌厚生病院)
白鳥 聡一(80期) 血液内科特任助教(同科 助教)
真鍋 治(80期) 核医学診療科特任助教(海外留学)
川畑 秀伸(会員2) 医学教育推進センター准教授(札幌医科大学地域医療総合医学講座 助教)

＜採用＞

平成30年3月1日 森田 真也(80期) 耳鼻咽喉科 助教
平成30年4月1日 深井 原(70期) 消化器外科学教室Ⅰ 特任講師
清水 康(71期) 腫瘍内科学教室 特任助教

平成30年4月1日 石田 雄介(75期) 腫瘍病理学教室 助教
 田口 大志(76期) 放射線治療科 助教
 渡辺 正明(77期) 移植外科学分野 特任講師
 岩田 玲(78期) 整形外科 助教
 柴崎 晋(78期) 消化器外科学教室 I 特任助教
 川堀 真人(79期) 脳神経外科 特任講師
 田中 公貴(79期) 消化器外科 II 助教
 川本 泰之(80期) 消化器内科 特任助教
 白鳥 聡一(80期) 血液内科 助教
 松本 隆児(80期) 腎泌尿器外科学教室 助教
 大原 克仁(81期) 腫瘍内科 助教
 亀田 啓(81期) 内科 II 助教
 鈴木 正宣(81期) 耳鼻咽喉科 助教
 成田 尚(82期) 精神科神経科 助教
 井平 圭(83期) 婦人科 特任助教
 北川 寛(84期) 精神科神経科 助教
 西川 直樹(84期) 先進急性期医療センター 助教
 渡部 昌(84期) 医化学教室 講師
 宮下 直洋(85期) 血液内科 特任助教
 渡邊 史郎(87期) 分子機能画像科学教室 特任助教
 鈴木 智貴(91期) 神経生理学教室 助教
 中川 絹子(会員2) 周産母子センター 助教

平成30年5月1日 高橋秀一郎(会員2) 検査・輸血部 助教
 平成30年6月1日 白井 慎一(83期) 神経内科学教室 特任助教
<昇任>
 平成30年2月1日 中丸 裕爾(66期) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 准教授(耳鼻咽喉科講師)
 奥 健志(77期) 内科 II 講師(同助教)
 平成30年3月1日 水町 貴論(75期) 耳鼻咽喉科 講師(同助教)
 平成30年3月16日 渡利 英道(65期) 産婦人科学教室 教授(婦人科准教授)
 平成30年4月1日 横尾 英樹(68期) 消化器外科 I 講師(同助教)
 加納 里志(75期) 耳鼻咽喉科 講師(同助教)
 岩見 大基(76期) 泌尿器科 講師(腎泌尿器外科学教室助教)
 斉藤 仁志(80期) 先進急性期医療センター 講師(麻酔科助教)

<配置換>
 平成30年4月1日 久保田 卓(70期) 循環器・呼吸器外科学教室 助教(循環器・呼吸器外科助教)
 加藤 徳雄(76期) 放射線医学教室 助教(放射線治療科助教)
 橋本 直樹(76期) 精神医学教室 助教(精神科神経科助教)
 岩田 大樹(78期) 眼科学教室 助教(眼科助教)

<所属換>
 平成30年4月1日 干野 晃嗣(83期) 先進急性期医療センター助教(麻酔科助教)

＜神奈川フラテ会開催のお知らせ＞

平成30年神奈川フラテ会を次のように開催しますのでお知らせします。
 日時 7月28日(土) 17時～20時
 会場 崎陽軒本店(横浜駅東口そば)
 Tel 045-441-8880
 会費 1万円 但し研修医と学生は無料(学生に交通費を支給します)
 昨年の会は学生とOBが合わせて30名出席し、OBの最年長は川上正也北里大名誉教授で年次は50年に及びました。学生の参加が増えたので新たに“学生の質問にOBが答える群”を設けたところ

好評でしたので今年はその時間を多くとることにしました。なお同窓による講演はお休みします。
 今年も絆の確認と盛り上がりのある会が開催できるよう世話人一同務めますのでお誘い合わせてご出席下さい。なお詳細は神奈川フラテ会HP(管理人市川靖史)でご覧下さい。
 世話人 仁保正和 武宮省治43
 国兼浩嗣58 力石辰也 田中潔60
 市川靖史62 折館伸彦64
 古屋充子67 前田慎69

＜第44期卒業50周年記念同期会日程＞

「獅子の会」50周年記念会は本年9月29日(土)の正午頃に札幌市内のホテルにて開催し、同日午後北海道大学で行われる「北大ホームカミングデー」の医学部行事に参加する企画を予定しています。詳細は別途ご案内致します。多数のご参加を期待しております。
 (44期評議員 中村仁志夫)

＜65期同期生教授就任祝賀会＞

「本間明宏君と渡利英道君の教授就任を同期でお祝いする会」を開催します。詳細は決定次第メーリングリストでお伝えします。あらたにメーリングリスト登録を希望される方はもちろん、登録を希望されない方も出欠確認ほか同窓会に関する連絡のみに使用することを確約しますのでscmed@live.comまでメールをお送りください。
 (65期・小谷晃司)

事務局からお知らせ

ご寄付のお願い

同窓会では、企業、団体、個人の皆様に、同窓会事業支援のためのご寄付をお願いしております。
 寄付者のご了承を得て同窓会新聞にご紹介し、10万円以上のご寄付には、楯または額による感謝状を贈呈させて

いただきます。
 ご寄付につきましては、同窓会事務局にご連絡ください。
 電話 : 011-706-5007
 E-mail : furate@med.hokudai.ac.jp

会員名簿の処分にお困りの方へ

会員名簿には個人情報掲載されていますので、ご不要になった名簿は適切な処分をお願いいたします。ご自身で処分が困難な方は、郵便又は宅配便により同窓会事務局へ送ってください。
なお、恐縮ですが送料は各自でご負担

願います。
 ○送付先
 〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目
 北大医学部内
 北海道大学医学部同窓会事務局

同窓会費について

○会費納入のお願い

会員の皆様には、会費納入にご協力いただきありがとうございます。
 同窓会の事業は会員の皆様の会費によって運営されています。今後も意義ある同窓会活動を継続していくために、会費納入にご理解とご協力をお願い申し上げます。

○会費納入は次のいずれかの方法によります

①口座振替 ②コンビニ納入 ③銀行振込
※詳しくは同窓会新聞に同封される払込票をご覧ください。

○会費未納者と刊行物の送付

・未納会費が2年を超える会員には、会

員名簿(同窓会誌)をお送りしません。
 ・納入が9月30日を過ぎると、入金確認及び印刷部数確定の都合によりお送りすることができません。

○会費免除者と刊行物の送付

・会則により、卒業後55年を経過した会員の会費は、翌年度から免除とな

ります。
 ・38期生は平成30年度から、39期生は平成31年度の会費から免除となりますが、免除前に2年を超える未納会費があると、会員名簿(同窓会誌)をお送りしません。

ドクター総合補償制度のご案内

同窓会では「ドクター総合補償制度」を創設し、現在、500名近い会員が加入して、ご好評をいただいています。
 本制度には「医師賠償責任保険(勤

務医向け)」、「医療・がん保険」、「所得補償保険」があり、団体割引が適用されるので割安な保険料で加入することができます。

年度途中でも加入出来ますので、同窓会事務局にお問い合わせください。
 電話 : 011-706-5007
 E-mail : furate@med.hokudai.ac.jp



新刊書紹介



「この一冊で育児は完結する」

たしも 成子あき
田下 昌明(40期)
明成社
¥1,944

著者の田下昌明先生は、北大医学部40期(昭和39年卒)の旭川に住む小児科医です。医師になって五十余年、延べ50万人の子供たちと接してきた田下先生の最新刊は、育児を通しての日本人論といえます。注目すべきは、母性の発生は動物行動学という生得的解発機構によるものだという主張で、これはおそらく世界初でありましょう。また、おとぎ話と偉人伝が子供の情操教育にいかん大事であるか、その意味を説くなど、類書には例のない独創的な本であります。

お子様を授かって、子育てをする。その前に、ご家族でこの本を読んでみ

ては、どうですか。赤ちゃんが乳房に吸い付いて乳をのむことは、母と子がお互いに離れられない存在になるインプリンティング(刷り込み)です。食事の始まりであり、しつけの始まりです。肝心なことが、丁寧に説明されています。子供は誰のものか、どんな大人に成って欲しいのか、育児の重要性が確認出来ると思います。家族で読みあって議論しておくのもよいでしょう。

母性は、授かった子が発する解発刺激を母親に内在する母性発生システムが受容し、子と接して行くにつれて大きなものに発展して行きます。これは、田下先生の持論です。2018年問題という少子化の世ほど、甘やかしてはいけません。子供は、ものの善悪が分かった状態では生まれてきません。子育ての基本は、善悪をしっかりと教えることにあります。

(40期 南 勝)



外来精神科診療シリーズ「統合失調症、気分障害」

こうやま あきお
神山 昭男(52期)他編
中山書店
¥8,640

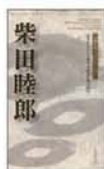
うつ病をはじめメンタルヘルスの問題への関心が高まって久しいが、それと同時に、全国におけるメンタルクリニックの増加も著しいものがある。精神科臨床の場が、入院治療から地域における外来診療へ移行しつつあることも、その要因のひとつであろう。またその延長として、臨床領域が単に精神疾患の治療にとどまらず、産業精神保健などのより予防的な活動を含むメンタルヘルス領域へ拡大しつつあることも近年の特徴のひとつといえよう。

本書は、メンタルクリニックを開業している全国の熟達精神科医達が執筆陣となり、外来精神科診療における

さまざまなテーマについて書かれた意欲にあふれた全10冊のシリーズの内の一冊である。特に本書には、編者のひとりである神山昭男君(52期)の、精神科領域でのもっとも基礎的な疾患である統合失調症と気分障害について精神科クリニックにおける取り組みを網羅したいとの思いが込められている。その彼も、産業精神保健領域におけるストレスチェック制度をはじめとした近年の動向を紹介し、職場と医療、家族・友人らとの「連携力」の必要を述べている。ちなみに評者も双極性障害と家族支援に関連して執筆させて戴いた。

本書をはじめ本シリーズは、精神科外来診療での実践力を鍛えようと志す若手の精神科医にとってはある種の羅針盤となるであろうし、中堅の精神科医には自らの実践をより幅広いものにする機会を与えてくれるであろう。

(52期 橋林理一郎)



川柳作家 ベストコレクション 「あなたらしいとほめられるけなされる」

しばた ひろお
柴田 睦郎(56期)
新葉館出版 ¥1,296

「川柳マガジン」を発行する新葉館出版では、雑誌発行200号を記念して、第一線で活躍する川柳作家の「ベストコレクション」シリーズを刊行する。北海道から選抜された7名の中に、柴田睦郎氏がいる。北海道医療大学病院小児科医長として日々臨床に精励しながら、21年の柳歴の中で珠玉の句をえらび「十七音で世の中と自分を詠む定型短詩」として出版した。氏の処女句集である。

ご自身の語るところによれば、中学生時代より古典落語や小咄に親しみ、新聞、雑誌などへの投稿歴を経て、40歳ごろよりNHK学園の通信教育で本格的に川柳を学び始めたという。札幌川

柳社内のグループ「時の風」を経て現在「川柳きやり吟社」所属。現在までに斎藤大雄、竹本瓢太郎、鈴木柳太郎、竹田光柳等、現代川柳を代表する作家の指導を受ける。新刊の題名とした「あなたらしいとほめられるけなされる」は雑誌の柳壇に載ったもので、選者は尾藤三柳師(第十六世川柳の父上)であったとのことである。

赫赫たる柳歴もさることながら、「それぞれの地図を重ねる同期会」「子の留守の父母の会話は途切れがち」など、柴田氏の人生に思いが及ぶ句があり、「曖昧が好きでないからなる無口」「結局は努力が実る長丁場」など、同僚として尊敬する氏の仕事ぶりが浮かぶ句があり、繰り返し読んで楽しみは尽きない。楽ではない人生の山坂に立ち止まるときに、静かな諧謔に満ちたこの句集を手にとられることをお勧めしたい。

(56期 西澤典子)



「心臓弁形成手術書」 -スベリヤリストのコツ、技とキレ-

くに はら たかし
國原 孝(67期)他著
南江堂
¥16,200

心臓弁膜症の治療として長年弁置換術が標準治療であったが、機械弁であれば生涯にわたる厳格な抗凝固療法が必要となり、生体弁であれば耐用年数が問題となる。最近ではそれらの諸問題を回避すべく、弁形成術が盛んに行われるようになってきた。しかし、この手術の成績は外科医の経験・力量に左右され、標準化が難しい分野である。また、僧帽弁形成術は広く普及しつつあるが、大動脈弁形成術は世界的にもごく限られた施設で行われているのみである。

國原孝博士は北大循環器外科で研鑽を積まれたのち、大動脈弁形成術における世界的権威であるドイツホンブル

グ大学のSchaeffers教授に長年師事された。現在、技術的に非常に難易度の高い大動脈弁形成術の日本における普及・標準化のために精力的に取り組んでおられ、その業績が評価され東京慈恵会医科大学心臓外科の次期教授に内定している。現在、最も注目されている心臓外科医の一人である。

本書はその國原孝博士が、他2名の弁形成術のスペシャリストと共に、弁形成術のコツと落とし穴を余すところなく著したものである。イラストを多用し、術式が直感的に理解できる様に随所に工夫が凝らされており、またWEB動画サービス付であり、著者らの素晴らしい手術をどこでも経験することができる。弁形成術を始めたい若手外科医のみならず、すでに豊富な経験を積んだ外科医に対しても知識のブラッシュアップを促すお勧めの良書である。

(73期 紙谷寛之)



「スムーズな血糖管理」 -病棟での血糖管理最新システム-

あぐろ しゅう
目黒 周(69期)
医学と看護社
¥3,240

「糖尿病学の父」とも言われるElliott Joslin博士はインスリンが発見され臨床応用され始めた直後の1924年に次のような言葉を残しているが、100年近く経過した現在でも真実である。"insulin is a remedy, not a cure ... and only for the wise and not the foolish, whether they be patients or doctors. Everyone knows it requires brains to live long with diabetes, but to use insulin successfully, requires more than brains."すなわち糖尿病の管理にはbrains以上のものが必要なのだ!

糖尿病患者は増加の一途にあり、私たちの糖尿病診療は自科診療に留まらず、他科入院中の多くの糖尿病患者の血糖管理にまで広がっている。本書はこれまであまり触れられることのなかった病院内

での糖尿病管理に焦点を絞った内容になっている点で非常にユニークである。筆者は北海道大学卒業後、地元に近い慶應義塾大学病院で研修し、糖尿病診療のメッカである東京都済生会中央病院で長く勤務した後、現在は再び慶應義塾大学病院で活躍中である。豊富な臨床経験を基に本書では病棟での糖尿病管理に必要なbrainsとmore than brainsがまとめられている。また、業務が複雑で他科も含め複数のスタッフが関わる血糖測定やインスリン投与は医療事故の原因にもなりやすく、筆者が実際に業務マニュアルの見直しやPOCT機の導入による業務改善を行い、医療事故を減少させてきた経緯は、多くの医療関係者の参考になるのではないだろうか。糖尿病を専門にしている医師や看護師だけでなく、病室全体、社会全体で糖尿病を管理していくためにも必読の本である。

(69期 三好秀明)



フルカラーCGで学ぶ「X線撮影のポジショニングとテクニック」

杉森博行著、
かみし まさひろ
神島 保(70期)監修
メジカルビュー社 ¥5,940

本書は放射線診断専門医の監修のもと、診療放射線技師が執筆したエックス線写真撮影技術の指南書である。お二人は北海道大学病院での長期にわたる勤務経験を経て、現在は北海道大学大学院保健科学研究所で活躍中である。これが意味するところは、画像診断の現場における豊富な臨床経験に、大学の講義室での教育実践が加わることで、実用的な教育資料が結実したということである。

実際にページをめくると、一項目・見開き構成で、フルカラー CGにより視覚的に正しいポジショニングが即座に理解できるように工夫されている。撮影対象となる解剖学的部位として、頭部・頸部、胸部・腹部、骨盤、脊椎、

上肢関節、下肢関節の主要な撮影法がカバーされている。加えて、より良い撮像となるようなコツや背景知識が短いコメントのように記載されている。あたかも被検者を前に、熟練した先輩から指導を受けながら撮影法の手ほどきを受けているようである。また、0章として装置に関する説明もあり、初学者の理解の助けになると思われる。

適切なエックス線写真、ひいては適切な画像診断は技師間のみならず、医師と技師の不断の、かつ良質のコミュニケーションから生まれるものである。その意味で、著者がこれまで培ってこられた様々な知識や技術のエッセンスが本書には満載されており、熟練者に対しては新たな情報を提供しようと考ええる。また、初学者の指導に際しても好適な教科書である。

(55期 田中 修)



「新渡戸稲造
日本初の国際連盟職員」
著者 新渡戸稲造
玉城 英彦(会員2)
彩流社
¥2,376

本著は著者の今年度の3冊目の著書である。新渡戸稲造は、札幌農学校の2期生で、同期には内村鑑三や宮部金吾がいた。彼らはクラーク博士の精神を引き継いで、国際社会へ邁進していった。

新渡戸は南部藩の下級武士の子として生まれ、6歳から英語を学んでいた。札幌農学校の後、さらなる学問を目指して東京帝国大学へ入学する。その時に入学希望とは聞かれ、「太平洋の架け橋」になりたいと面接官に答えたというの有名な話である。

新渡戸は、米国やドイツなどに留学し学問を修める一方、38歳で『BUSHIDO: The Soul of Japan』を出版した。ここで描かれる「日本の魂」は

世界的なコンテクストの中で語られた。新渡戸は、日本国内でいろいろな要職を経て、世界平和を構築するために1920年に組織された世界最初の国際機関である国際連盟において日本人第一号の国際公務員となった。新渡戸は、むしろ「日本人らしさ」を強烈な個性として前面に出して、国際社会で激動の時代に輝かしい功績を残した。

本著では、新渡戸の国際連盟勤務期間中(1920-1926年)の事務方としての仕事を紹介しつつ、日本が戦争へと突き進む時代、どのような苦悩があったのかもていねいに読み解く。「ふつう」が通用しない国際社会で、新渡戸の生き方はテキストになる。

これから活躍する若者たちに向け、WHOで15年活躍した著者が語る、一味違う新渡戸の評伝です。ぜひ一読を薦めます。

(81期 村上 学)

平成30年度 同窓会会員名簿記載事項確認のお願い

本年度は、名簿発刊の年に当たっており、11月下旬の発送を予定しております。最新登録データは、新聞に毎号同封しております「登録情報変更届(兼宛名台紙)」あるいは「コンビニ払込票(兼宛名台紙)」右上の「住所登録内容確認」部分に印刷しております。変更等がございましたら、今回の同窓会新聞に同封いたしました最新の「会員登録情報変更届」で、9月28日(金)までに事務局までお知らせください。(FAXやE-mailでも結構です。)ご返信のない方につきましては、訂正変更がないものとし、同窓会会員名簿に従来の登録データを掲載させていただきます。

住所変更等には可能な限り対応いたしておりますが、期日以降にご連絡いただきました場合、名簿の印刷には間に合

ない可能性があります。申し訳ございませんが、その旨ご了承ください。

また、名簿の校正は、各期評議員(予備評議員)あるいは各期の担当者が、自分の卒業期のみを担当しております。会員名をかたる偽の問い合わせには、くれぐれもご注意くださいよう、お願い申し上げます。

平成26年度より、2年を超える会費未納者には、会員名簿および同窓会誌の送付を停止することになっております。本年度の会員名簿の送付を希望する会員は、平成30年9月30日までに未納会費の納付をお願いいたします。

それ以降に納付されても、名簿をお届けすることはいたしかねますので、ご了承ください。

北海道医学会からお知らせ

○北海道医学会について

北海道医学会は北海道における医学と医療の進展を図るため、大正12年に発足した学術団体です。現在は、北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学の医師、医学研究者のほか本会の目的に賛同される方々を一般会員として、また道内の主要医療機関には特別会員として、本会に功績のあった方々には名誉会員としてご参加いただいております。

○主な活動内容

- ・機関誌「北海道医学雑誌」の発行(5月、11月：平成30年は第93巻)
- ・学術集会「市民公開シンポジウム」の開催(10月下旬：昭和42年から

実施)

- ・若手研究者への「研究奨励賞」の授与(年3名以内に賞状及び副賞：昭和58年から実施)

※ 北海道医学雑誌は大正12年8月の創刊以来、戦中、戦後の一時期を除いて今日に至るまで継続して刊行され、北海道における医学総合雑誌として広く認知されています。

本誌は原著論文、学位論文以外にも、「研究会」「教室だより」などのセクションにおいて会員の様々な活動を紹介しています。

○会員の状況

- (平成29年12月31日現在)
- ・一般会員 689名 (年会費 4,000円)

- ・学生会員 7名 (年会費 1,000円)
- ・特別会員 76団体 (年会費 25,000円)
- ・名誉会員 133名

○入会のご案内

本会に入会されていない同窓会におかれましては、是非ご入会いただけますようご案内申し上げます。医療機関としてのご入会も歓迎します。

なお、会員には機関誌「北海道医学雑誌」を発行の都度お届けいたします。

入会方法は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

○「北海道医学雑誌」の原稿募集

- ・募集する原稿は、「原著論文」「症例報告」「総説」「速報」「学位論文」「学位論文の要旨」「BAY (Best Articles of the Year)」「研究会抄録」「談話会抄録」等です。

- ・「教室だより」「海外だより」等、論文以外の投稿も歓迎します。
- ・投稿者は北海道医学会会員であることを原則とします。
- ・投稿規定、掲載料等は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

○お問い合わせ先

北海道医学会事務局
電話 : 011-706-5007
E-mail : digakkai@med.hokudai.ac.jp

同窓会費の 納入は 口座振替で

同窓会費の納入方法は、①口座振替、②コンビニ納入、③銀行振込のいずれかです。

とくに口座振替は、店頭へ出向く手間が省けます。また、納入忘れがないのでとても便利です。

口座振替を希望する方は、同窓会事務局にお申し付けください。
電話 : 011-706-5007 E-mail : furate@med.hokudai.ac.jp

同窓会費納入の お願い

同窓会事業は会員の皆様から納入された会費によって運営されています。会費納入にご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

ご逝去者 新聞159号発行以降、ご連絡いただいた方を掲載しております。

御逝去年月日	氏 名	期	御逝去年月日	氏 名	期
平成27年	前 川 隆	30	1月30日	森 祥 一	専旧6
10月30日	岩 下 昭 彦	30	2月 6日	八 森 啓	41
平成29年			2月15日	堀 修 司	47
2月18日	亀 谷 八 郎	専旧6	2月20日	本 間 勉	専旧6
11月20日	新津谷 哲 郎	専旧7	2月23日	辻 勝 美	専旧6
12月18日	中 野 五 郎	樺太	3月 1日	篠 原 猛	36
12月23日	山 田 楓 子	43	3月 4日	西 村 昭 男	32
平成30年			3月 6日	小笠原 清 行	専新7
1月 5日	太 田 丞 一	33	3月13日	池 田 基 彦	45
1月 8日	杏 澤 武 夫	40	3月27日	樺 権 弘 親	56
1月 8日	阿 部 達 夫	53	3月29日	池 永 和	28
1月13日	土 谷 允 男	34	4月 4日	池 端 隆	27
1月14日	伊 藤 哲 夫	30	5月 8日	松 昌 雄	43
1月17日	鈴 木 愷 宏	44	5月11日	田 坂 芳 郎	33
1月23日	齊 藤 弘 行	専旧6	5月11日	齋 藤 卓 也	専旧7
1月24日	河 村 弘 司	専1	5月16日	塚 守 雄	39

同窓会新聞は142号からHP上でご覧いただけます。アドレスは次の通りです。
<http://hokudai-med-dousou.com/news/index.htm>

一面の写真説明

「Youth」長井 梓(89期)

Youth is not a time of life; it is a state of mind; it is a matter of the will, a quality of

編集後記

この編集後記を書く頃、暖かい日差しに桜の花が慌てて開花している。春はご指導いただいた恩師が退職され淋しく不安に感じる一方で、新入学や新入会の様子を知り新たなエネルギーを感じる季節でもある。原稿に目を通しながら今年の新入生が100期だと気づき驚いた。医学部創立100周年記念事業で盛り上がり

the imagination, a vigor of the emotions.
- Samuel Ullman

北大YOSAKOIチーム「緑」の演舞である。6月の青空と新緑とともに学生たちのエネルギーが弾ける。

いるのだから、いまさら何を言っているのかとお叱りを受けそうだが、キリのよい数字にふと自分の期との差を無意識に計算してしまい、年月の過ぎ去る速さに目眩がしたのだ。今号にもたくさんの同窓会会員の活躍が紹介されている。ほんやりしてはいられない。

(66期 長 祐子)